

令和 6 年度

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

(ネットワーク略称 SPOD=Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education)

活動報告書

令和 7 年 3 月



目 次

1	会長挨拶	1
2	S P O D 事業の概要	3
3	令和 6 年度事業計画	6
4	令和 6 年度全体総括	9
5	令和 6 年度活動実績	
(1)	共通事業	1 4
(2)	F D 事業	2 7
(3)	S D 事業	3 2
(4)	S P O D 運営	3 6
6	令和 6 年度各加盟校の取組報告	3 7
7	令和 5 年度事業評価委員会からの事業評価について	7 0
8	令和 7 年度事業について	7 7

参考資料

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」規約	8 1
「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」役員名簿	8 5

※アンケート集計結果等については資料編（S P O D ホームページ掲載）を御覧ください。

S P O D ホームページURL : <https://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

1．会長挨拶

会長挨拶

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)は、文部科学省「戦略的大学連携支援事業」の採択を機に平成20年10月に設立されました。平成23年度からは、四国内の大学、短期大学、高等専門学校が分担金を出し合い、共同で事業運営を行う自主運営体制に切り替わりました。また、本年度(令和6年度)は新たに高知健康科学大学を加盟校として迎え、全36校が加盟する連携組織となりました。設立から16年目を迎え、SPODの取組は、四国地区の高等教育機関のみならず全国の高等教育機関にも広まり、多くの教職員にご活用いただく事業となっています。これもひとえに皆様のご理解とご支援によるものと、心より感謝申し上げます。

さて、本年度は地震や台風、局所的な大雨など日本各地が自然災害に見舞われた年でもありました。SPODの毎年の最大イベントである「SPODフォーラム」においても、台風10号の接近により研修プログラムを全面中止としました。ポスターセッションは後日特設サイトの掲載に切り替え、基調講演も録画公開となるなど、当初の計画の変更を余儀なくされました。

そのような中でも、高等教育機関の教職員の方々に向けた研修機会を提供するため、11月から12月にかけて「SPODオンラインセミナーシリーズ」を企画し、教職協働やDX、生成AIなど注目度が高いテーマを中心に研修を行いました。5日間で10プログラムを実施した結果、参加者数の合計は500人となり、全国から多くの方に参加いただきました。事後に実施した受講者アンケートでは、回答者の95.2%に「満足」と回答いただくなど、高い評価を得ることができました。事業の運営に関わっていただいた全ての皆様に、重ねて御礼申し上げます。

また、加盟校からのご意見を取り入れながら、SPOD内講師派遣プログラムの新規プログラム開発や各研修プログラムの見直し、オンラインランチセミナーの充実など研修体制の強化にも継続して取り組んでおります。さらに、「SPODスタッフ・ディベロップメント・コーディネーター(SPOD-SDC)」取得者への研修を行うなど、各加盟校が自校で教職員の能力開発を推進できるよう、支援の充実も図っているところです。

今後もSPODが加盟校や全国の皆様により活用いただけるものとなるよう、事業の改善に努めて参ります。引き続き、SPODの発展にお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク会長

愛媛大学長 仁科弘重

2．S P O D事業の概要

SPODの将来構想(令和4年度～9年度)

【全体方針】

1. FD・SDの地域ネットワークのリーダーとしてのプレゼンスを維持する
 - ・プログラムの見直し及び新規開発に取り組むことで、FD・SDを一層発展させる
 - ・活動の内容と成果を広く発信していく
2. SPODフォーラムを国内最高のFD・SDの機会にする
 - ・優れたFD・SDプログラムをフォーラムで提供する
 - ・ポスターセッションによって発信や交流の場を提供する
3. 対面研修では対面の特徴を活かした学習や交流の機会を提供する
 - ・対面ならではの参加型の学習を取り入れる
 - ・参加者間のネットワークづくりを促進する
4. 希望する時間と場所で学習できるオンデマンド研修の機会を増加する
 - ・ニーズに合ったオンデマンドの教材を開発し提供する
 - ・オンデマンドの教材を活用してハイブリッド型の研修を増加する
5. 持続可能なSPODの組織体制を構築する
 - ・会議等の遠隔開催、書面開催を積極的に行う
 - ・刊行物は書類を減らし、ウェブサイトなどの情報提供を充実させる
 - ・事業予算の柔軟な運用などによって安定的な財政基盤を維持する

【FDの方針】

1. FD・SDの地域ネットワークのリーダーとしてのプレゼンスを維持する
 - ・プログラムの見直し及び新規開発に取り組むことで、FD・SDを一層発展させる
 - ・活動の内容と成果を広く発信していく
2. オンラインによるFDプログラムの共同開発
 - ・大学を超えた新たな取組として、SPODコア校のFD担当者が共同でオンラインによるFDプログラムを開発、実施し、SPOD加盟校に提供する

3. 大学院生を対象としたプレFD開発

- ・大学院設置基準の改正に伴う取組として、共同でプログラムを開発し、共有する
- ・大学院生のニーズを把握し、プログラム開発に活かす

4. 分野別FDプログラム開発・FD担当者養成

- ・加盟校の文脈や専門分野に即した具体的で実効的なプログラムとするため、SPOD加盟校における分野別FDプログラムをコア校以外の加盟校の担当者も含めて共同で開発する
- ・学部や小規模大学においてFDを推進する担当者の育成、支援を行う

5. TA・SAを活用した教育の質向上

- ・TA・SAを適切に活用し、授業の可能性を広げ、学生の学習効果を高めるためのFDプログラム開発及びTA・SAの育成を行う

【SDの方針】

1. オンラインによるSDプログラムの共同開発

- ・オンデマンド動画コンテンツを開発する
- ・既存のSDプログラムの一部または全部のオンライン化を検討および導入する

2. SDプログラムの体系再構築

- ・SPOD加盟校のニーズ調査に基づく新規プログラムを開発する
- ・既存のSDプログラムの内容の点検・評価および再構築を行う

3. SDプログラム修了者のフォローアップ体制の充実

- ・次世代リーダー養成ゼミナール修了生やSPOD-SDC取得者への研修や勉強会を実施する

4. 加盟校間のSDコミュニティ構築

- ・日常的な意見交換、定期的な勉強会（経営学や心理学など業務に活用可能な知識習得）の場を構築する

5. SDの内製化の推進と支援

- ・研修設計と評価に関するSDを充実させる
- ・SDの年間計画に関するコンサルティングを実施する

3．令和 6 年度事業計画

令和6年度SPOD事業計画

1. SPOD共通事業

- ・SPODフォーラム

8月28日（水）～8月30日（金） 開催場所：香川大学

「全体テーマ：Connection～これからの学びを考える～」

トップリーダーセミナーを併せて開催

- ・大学教育カンファレンス in 徳島

12月26日（木） 開催場所：徳島大学

- ・SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計26回） 開催場所：各加盟校

原則として、1法人あたり1回とする。

ただし、高等専門学校については、1校あたり1回とする。

- ・FD・SDに関する調査研究

- ・情報提供サービス

①研修プログラムガイド2024の発行（年1回、ホームページ掲載）

②令和6年度SPOD活動報告書の発行（年1回、ホームページ掲載）

③SPODホームページの管理・更新

④SPODメールマガジンの発行

- ・その他コア運営協議会で承認された事業、プログラム等

2. FD事業

- ・FD担当者研修 開催場所：香川大学

SPODフォーラム2024において開催

- ・新任教員研修の実施・公開 開催場所：各コア校

- ・ティーチングポートフォリオ作成ワークショップの公開・実施

開催場所：愛媛大学、徳島大学

- ・各種FDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校

研修プログラムガイド2024に掲載したプログラム

3. SD事業

- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（年5回）

開催場所：高知県内、徳島大学、愛媛大学

新任職員 1回 対面 5月15日（水）～17日（金） 【高知県内】

レベルⅠ 1回 対面 10月31日（木）～11月1日（金） 【愛媛大学】

レベルⅡ 2回 対面 6月20日（木）～21日（金） 【愛媛大学】

11月21日（木）～22日（金） 【徳島大学】

レベルⅢ 1回 対面 10月3日（木）～4日（金） 【愛媛大学】

主担当：SPOD事務局 協力校：徳島大学、高知大学、愛媛大学

- ・職務別能力開発研修、SD担当者研修

SPODフォーラム2024において開催

- ・次世代リーダー養成ゼミナール（年5回）

※うち1回は「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅡ）」を充てる

1回目 5月22日（水）～24日（金） 【愛媛大学】

2回目 7月11日（木）～12日（金） 【香川大学】

3回目 10月17日（木）～18日（金） 【高知大学】

4回目 11月21日（木）～22日（金） 【徳島大学】

5回目 1月23日（木）～24日（金） 【愛媛大学】

主担当：SPOD事務局 協力校：各コア校

- ・各種SDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校

研修プログラムガイド2024に掲載したプログラム

4. SPOD運営

①総会（年1回）

②ネットワークコア運営協議会（年6回程度）

※うち1回は徳島大学での対面開催を予定

③事業評価委員会（年1回）

④監査（年1回）

⑤その他

i) FD／SD分科会

・FD分科会（年1回）

・SD分科会（年1回）

ii) SPOD加盟校県内会議 四国各県において必要に応じて実施

4．令和6年度全体総括

(1) SPOD共通事業

①SPODフォーラム2024

令和6年8月28日～30日の3日間、「SPODフォーラム2024」を香川大学幸町キャンパスで開催を予定し、全国から451人の参加申し込みがあった。しかし、台風10号の接近により、全国的な公共交通機関の運休が生じたため、今回のSPODフォーラムは開催期間中の研修プログラムの実施を中止した。

一部プログラムは方法を変更して実施することとし、ポスターセッションは、9月24日～10月18日の間、特設サイトにて21件のポスターを掲載した。基調講演「大学業界は問題だらけ～地方大学のサバイバルのために～」は、11月8日～12月13日の間、YouTube上に動画を限定公開し、561回視聴された。

②SPODオンラインセミナーシリーズ

令和6年11月14日、29日、12月6日、12日、20日に「SPODオンラインセミナーシリーズ」と題して、全10プログラムのオンラインセミナーを開催した。教職協働、IR、DX、生成AIなど、FD・SDにおいて注目が高まっているテーマを揃え、延べ500人が参加した。

③第20回大学教育カンファレンスin徳島

令和6年12月26日（木）に、「第20回大学教育カンファレンスin徳島」を徳島大学で対面（一部オンライン）開催した。SPOD加盟校や他の高等教育機関で行われている教育実践の先駆的な取組を共有し発展させる機会となるよう、口頭及びポスターによる研究発表、ワークショップ、特別講演など様々なプログラムを提供した。今年度は、161名（対面110人、オンライン51人）の参加があり、オンライン配信のプログラムを実施したことで、徳島大学以外の機関からも多数の参加があった。全体の満足度も95.2%と好評であり、参加者のニーズや関心に合った研究発表の内容や特別講演のテーマを提供できた。

④SPOD内講師派遣

各加盟校が希望するプログラムについて、SPODから担当講師を年1回派遣するSPOD内講師派遣として、今年度も全加盟校（36機関）に派遣し、受講者は1,114人となった。本事業により、FD・SD担当専任教員等の配置が困難な小規模校においても、自校での研修開講が可能となっている。各組織等に与える影響も大きく、ほとんどの加盟校が継続を希望している。

⑤情報提供

SPODプログラムガイド、SPOD活動報告書についてホームページで公開しているほか、研修イベントやSPODに関する各種情報を配信するSPODメールマガジンを運営している。また、愛媛大学FD・SDチャンネルのYouTube、XなどにもSPODのイベント情報等を掲載し、SNSでの広報にも取り組んだ。

(2) F D事業

①各種研修の実施

新任教員研修やティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップなど、各種研修を実施した。新任教員研修については、各ネットワークコア校（以下、コア校という）が主催するどの研修を受講しても同様の効果が得られるよう、コア校間でプログラムを標準化している。今年度は3校で開催し、加盟校8校から63人の参加があった。

②F Dに関する調査研究

F D専門部会において、S P O D将来構想のF Dの方針達成に向けた取組を行っている。今年度は、4つのプロジェクトチームに分かれて調査研究を行った。研究成果については、S P O Dフォーラムのポスターセッションで加盟校を対象に実施したT A・S A制度に関するアンケート結果の公開を行ったり、オンラインセミナーでオンラインF Dコンテンツプラットフォームサイトの説明を行ったりした。今後もプロジェクトの目標の実現に向けて、各チームでのミーティングや調査研究に取り組んでいく。

(3) S D事業

①各種研修の実施

「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」を各階層で開催し、合計で237人が受講した。新任職員対象研修については、今年度から中途採用者の受講プログラムを精査し、日程の短縮を図った。

「次世代リーダー養成ゼミナール」は、令和5年度から実施期間を2年から1年に変更したプログラムで開催しており、加盟校6校から7人が受講した。オンデマンド学習も取り入れることで、これまでと同程度の学習を提供しつつ、短期間で将来のリーダーを担う人材の育成が可能となっている。

②S Dに関する調査研究

S D専門部会においては、令和5年度からの2年間、専門部会の下に「次世代を切り拓く大学職員の育成に関する検討ワーキンググループ」を設置し、S P O D将来構想のS Dの方針に基づく取組を行っている。次世代リーダー養成ゼミナール修了生やS P O D－S D C資格認定者が中心となって定期的にミーティングを実施し、大学職員の育成に必要な方策について検討を行った。ワーキンググループの成果については、S P O Dフォーラムのポスターセッションでの発表うとともに、S Dに関する改善案として総会に提案し、来年度以降S Dプログラムの見直しなどに着手する。

(4) S P O D運営

①ネットワークコア運営協議会

コア校のF D・S D担当者等が事業の実施、運営等の諸課題について教職協働で協議することを目的に開催している。今年度は対面開催1回を含む、計7回開催した。

また、コア校のFD・SD担当者それぞれで構成する専門部会も併せて開催し（FD専門部会：計6回、SD専門部会：計7回）、各事業の進捗状況や成果及び今後の課題について意見交換を行った。

②その他会議等

3月に事業評価委員会と会計監査をそれぞれオンラインで実施した。また、3月には事業評価委員から書面で今年度の事業実施状況について別途意見をいただいた。事業評価委員や監事からいただいた指摘や意見については、ネットワーク運営協議会の中で対応策を検討し、SPOD事業の改善に繋げている。

5．令和6年度活動実績

(1) SPOD共通事業

① SPODフォーラム2024 (台風接近のため中止)

日 時：令和6年8月28日(水)～30日(金)

開催方法：対面(香川大学幸町北キャンパス)

主催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)／香川大学

全体テーマ：「Connection～これからの学びを考える～」

申込者数：451名

SPODフォーラムとは

大学等の教職員が自らの能力開発のために役立つ、多種多様で質の高いFD・SDプログラムならびに組織を越えた持続的な相互交流・関係づくりの場を提供する。

特徴

1. 多彩な講師陣
2. 職場で使える実践型プログラム
3. SDプログラムも多数開講

実施内容及び成果

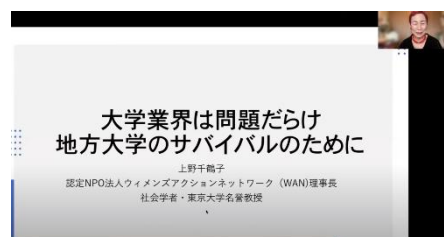
あらゆる立場の教職員が、その場でスキルアップにつながるような実践的なプログラムを提供することを目的として、8月28日～30日の3日間、香川大学幸町北キャンパスで「SPODフォーラム2024」の開催を予定していた。しかし台風10号が接近し、全国的な公共交通機関の運休が生じたため、開催期間中の研修プログラムの実施は中止することとなった。



一部プログラムについては、開催方法をオンラインに変更して実施し、ポスターセッションは、9月24日～10月18日の間、特設サイトにて21件のポスターを掲載した。

また、上野千鶴子氏の基調講演「大学業界は問題だらけ～地方大学のサバイバルのために～」は、11月8日～12月13日の間、YouTube上に動画を限定公開し、561回視聴された。基調講演の視聴者からは、「ノイズが新しい情報(価値)を生み出す話がとても印象に残り、ノイズが生まれる土壌を如何に大学内につくるかが、今の地方大学に足りないと言われているように感じた」「地方大学の生き残りをかけて、地域と大学をどうプロデュースしていくか、自分ができることは何か考えるきっかけをいただけた」などのコメントがあった。

次回の「SPODフォーラム2025」は、徳島大学を主催校とし、徳島大学常三島キャンパスでの開催を予定している。



SPODフォーラム2024 ポスターセッション

番号	テーマ	発表代表者		SPOD 加盟校
		所属	氏名	
1	香川大学の教職学協同のDX推進の取り組み	香川大学情報部情報基盤課	小寺 賢志	○
2	キャリア科目の学びを就職活動につなげる授業実践	松山東雲短期大学現代ビジネス学科	遠山 敦子	○
3	初年次教育における同心円状の学生支援体制の確立	徳島文理大学香川薬学部	竹内 一	○
4	広島市立大学における新任教員研修の開発	広島市立大学教育基盤センター	山咲 博昭	
5	これからの教学マネジメント実現チェックリストの開発	滋賀医科大学 医学・看護学教育センター	井上 一成	
6	SPODフォーラム2025に向けた探索的議論	徳島大学高等教育研究センター	吉田 博	○
7	大学職員の中堅層向け研修プログラム開発に向けた研究	大阪体育大学庶務部学長室担当	佐藤 浩輔	
8	学生の期待と高専教育の乖離	大分工業高等専門学校	坪井 泰士	
9	教職協働による教育改善を促すためのポスターの制作	山口大学教育・学生支援機構教学マネジメント室	藤本 正己	
10	【続】“お手製”ディプロマサブリメントの新たな展開	大阪経済大学企画部教学企画課	荒川 崇	
11	『香川大学TA・SAハンドブック』の作成経緯とその特徴	香川大学教育推進統合拠点大学教育基盤センター	蝶 慎一	○
12	分野横断学修者をピアサポートするSAMニュアルの検討	新潟大学教育基盤機構教学マネジメント部門	上畠 洋佑	
13	TA・SA制度に関するSPOD内調査の結果について	愛媛大学教育・学生支援機構	村田 晋也	○
14	SPODオンラインFDプラットフォームサイト（β版）の開発	徳島大学高等教育研究センター	飯尾 健	○
15	地域おこし協力隊をパートナーとした自治体PBLの実践	徳島大学人と地域共創センター	川崎 修良	○
16	四国地区の障害学生支援の現状とネットワーク構築に向けての課題	香川大学教育推進統合拠点学生支援センター	大沼 泰枝	○
17	新設部局の教学マネジメント構築に向けた教職協働事例	大阪公立大学学務部教育推進課情報学研究所支援事務局	藤原 哲	
18	高知大学Connection! Well-beingへの挑戦	高知大学財務部財務課	久保 直毅	○
19	認証評価適合取消から長所へ—教職員理解向上の取組	大阪産業大学学長企画室内部質保証推進課	芳中 宗一郎	
20	認証評価を活用したSD研修の取組みについて	大阪国際大学学長室兼庶務課	前河 泰正	
21	続・次世代を切り拓く大学職員の育成検討WGの活動	愛媛大学教育学生支援部	石川 尚	○

SPOD フォーラム 2024

Connection ～これからの学びを考える～

Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education



SPODフォーラムとは … 大学等の教職員が自らの能力開発のために役立つ、多種多様な質の高いFD/SDプログラムならびに組織を越えた持続的な相互交流・関係づくりの場を提供します。

日時・場所

2024年8/28(水) ▶ 30(金) 香川大学 幸町北キャンパス

主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)／香川大学

※本フォーラムの一部は公益財団法人 高松観光コンベンション・ビューローの補助事業の支援を受けています。

参加申込

※事前申込制
(先着順)

SPOD加盟校の教職員限定受付 2024年6月17日(月)正午～7月1日(月)正午

一般受付(SPOD加盟校の方も申込可) 2024年7月3日(水)正午～7月19日(金)正午

申込みはWEBから

<https://www.spod.ehime-u.ac.jp>

参加費

SPOD加盟校の教職員

無料

SPOD加盟校以外の教職員

10,000円

特徴

1 多彩な講師陣

先進的な教育改革で知られる大学のトップ、各大学のFDやSDの第一線で活躍する教職員やディベロッパー、職場の人材育成・能力開発分野で活躍するプロフェッショナルなど、多彩かつ魅力的な講師陣をそろえました。

特徴

2 職場で使える
実践型プログラム

グループワークを含む講義が数多く開催されます。参加者には、意見を出し合い知を共同で作り上げることが求められると同時に、職場ですぐに使える実践的なノウハウを持ち帰ることができます。

特徴

3 SDプログラムも
多数開講

SPODでは、FD同様にSDに力を入れており、他では体験できないプログラムを数多く開講しています。教育改善に関心のある多くの教職員の方の参加をお待ちしております。

参加者の声

- ・専門分野以外の方と話せる機会があり、豊富な種類のセミナーがあるため、新しいこと、知りたいことが見つけやすいです。
- ・大学の運営に関わるさまざまな立場の方とつながることができました。また、それにより自身の大学を見る視角を広げることができました。



香川大学幸町北キャンパス

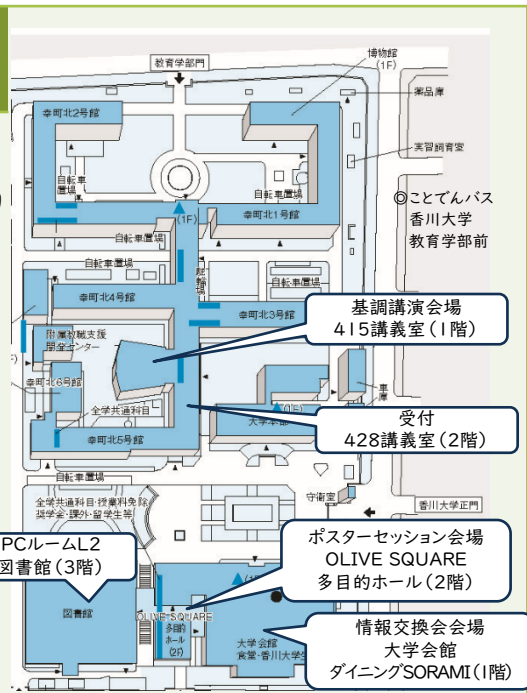
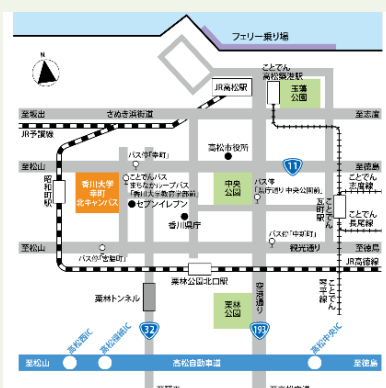
香川県高松市幸町1番1号

駐車場はありません。公共交通機関のご利用をお願いします。

- JR利用の場合
高徳線「高松駅」→「昭和町駅」下車 徒歩5分
- 航空機利用の場合
高松空港リムジンバス→「中新町」又は「県庁通り中央公園前」下車徒歩10～15分

その他(バスなど)のアクセス方法は香川大学ホームページからご確認ください。

<https://www.kagawa-u.ac.jp/access/saiwai/>



●お問い合わせ先

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事務局(愛媛大学教育・学生支援部教育企画課)

☎089-927-9154 ☎E-mail spod@stu.ehime-u.ac.jp

●当日のお問い合わせ先

香川大学教育・学生支援部教育企画課

☎087-832-1186

開催スケジュール

●各プログラムのシラバスは、こちらからご確認ください。 <https://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

全体受付

プログラムを受講する方は、必ず各自の受講初日に全体受付を済ませてください。 全体受付：4号館2階 428講義室

会場	A	B	C	D	E	F
教室	3号館(2階) 321講義室	4号館(2階) 421講義室	4号館(2階) 422講義室	4号館(2階) 423講義室	5号館(2階) 522講義室	5号館(2階) 523講義室
1日目 8月28日(水)	1 13:00～15:00 みんなでDX～ハンズオン入門編～ 武田啓之(香川大学) 小寺賢志(香川大学) 川瀬 舞(香川大学) ワーク・講義 40名 PCルームで実施	2801B 大学職員の業務における見直しと改善 藤本正己(山口大学) 野口浩輝(香川大学) ワーク・講義 40名	2801C 多様な学生の理解と学生支援 野口 悟(高知大学) ワーク・講義 40名	2801D 設置申請入門～教育組織改革による活性化～ 宮内卓也(高知大学) ワーク・講義 32名	2801E シラバス・授業を改善しよう! 蝶 慎一(香川大学) 西本佳代(香川大学) 佐藤慶太(香川大学) 上月翔太(愛媛大学) 俣野秀典(高知大学) 飯尾 健(徳島大学) ワーク・講義 48名	2801F 心理的安全性の高いクラス運営と教員育成 山中隆史(香川大学) ワーク・講義 48名
	2 15:30～17:30 デジタル時代のカリキュラム編成 中井俊樹(愛媛大学) 講義 150名	2802B 教務経験不問 はじめての教学マネジメント 坂本規孝(広島市立大学) ワーク・講義 30名	2802C 最新教職法令に基づく多様な履修相談対応事例 小野勝士(龍谷大学) ワーク・講義 40名	2802D SD担当者研修 -計画と運営の基礎を学ぶ- 竹中喜一(近畿大学) ワーク・講義 30名	2802E ワーク 20名	2802F 障害学生支援の観点から考える授業の工夫 高橋由子(高知大学) 講義 50名
	17:45～19:00 ポスターセッション	会場:OLIVE SQUARE 2階 多目的ホール				

2日目 8月29日(木)	1 10:00～12:00 トップリーダーセミナー 教職協働vs.教職分担-大学組織の再考- 杉原 明(工学院大学) 講義 150名	2901B 授業科目数の適正化のために 上月翔太(愛媛大学) ワーク・講義 40名	2901C 学生支援における教職協働を考える不登校編 杉田郁代(高知大学) 藤巻晃(徳島文理大学) 藤本正己(山口大学) ワーク・講義 40名	2901D 風通しの良い職場をつくるためにできること 島田くみこ(高知県立大学) 浜田昌代(高知大学) 高木佳代子(愛媛大学) 坂本規孝(広島市立大学) ワーク・講義 30名	2901E ルーブリック評価入門～考える、つくる、活用する～ 俣野秀典(高知大学) ワーク 40名	2901F ケースを通して考える中間管理職入門 小方直幸(香川大学) 野口里美(香川大学) 石原卓也(神戸大学) ワーク 20名
	2 13:00～15:00 トップリーダーセミナー 人と組織の関係性-Z世代と管理職- 山崎その(京都外国語大学) 講義 150名	2902B ハラスメント予防のためのアサーション 井ノ崎敦子(徳島大学) ワーク・講義 40名	2902C 授業における学生の学習評価の「つなげ方」 飯尾 健(徳島大学) ワーク・講義 40名	2902D ワーク 30名	2902E テキストマイニング入門 塩川奈々美(徳島大学) ワーク・講義 30名	2902F カリキュラムを通じた学習成果の評価を考える 竹中喜一(近畿大学) ワーク・講義 40名
	3 15:30～17:30 基調講演 「大学業界は問題だらけ～地方大学のサバイバルのために～」 上野 千鶴子(社会学者・東京大学名誉教授・認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長) 司会進行:高橋 尚志(香川大学) 会場:4号館 415講義室 開催形式:対面開催(登壇者はZoomによるオンライン配信) 200名	2903G				
	18:00～20:00 情報交換会	会場:大学会館1階ダイニングSORAMI 会費:3,000円(事前申込み制)				

3日目 8月30日(金)	1 10:00～12:00 生成AIと歩むこれからの大学 森木銀河(九州大学) 講義 150名	3001B 電子テキスト型コンテンツの制作と授業運用 林 敏浩(香川大学) 講義 40名	3001C 教務が理解しておきたい法規と最新政策動向 宮林常崇(東京都立大学法人) ワーク・講義 50名	3001D FD担当者のためのFD企画講座 吉田 博(徳島大学) 塩川奈々美(徳島大学) 杉田郁代(高知大学) 高畑貴志(高知大学) ワーク・講義 20名	3001E 大学教職員のための教学IR入門 真鍋 亮(愛媛大学) ワーク・講義 40名	3001F 教育・学修支援担当者のネットワーク構築 石井和也(宇都宮大学) 伊勢崎奈津子(立正大学) 小川紀亜子(植草学園大学) ワーク・講義 50名
	2 13:00～15:00 みんなでDX～ハンズオン実践編～ 武田啓之(香川大学) 小寺賢志(香川大学) 川瀬 舞(香川大学) ワーク・講義 40名 PCルームで実施	3002B 効果的な授業構成にするためのIDの使い方 仲道雅輝(愛媛大学) ワーク 24名	3002C 大規模授業におけるアクティブラーニングの実践 金西計英(徳島大学) ワーク・講義 40名	3002D ワーク 20名	3002E ゲームで考える職員間のギャップ 藤巻 晃(徳島文理大学) 野口里美(香川大学) ワーク 30名	3002F 大学職員のための自己啓発入門 藤本正己(山口大学) 杉原康弘(松山大学) ワーク・講義 32名

ワーク 主にグループワークやペアワークを中心としたプログラムです。 講義 主に講義を中心としたプログラムですが、グループワークやペアワーク等が含まれる場合もあります。 ワーク・講義 グループワークと講義を併用したプログラムです。 名 プログラム定員

(1) SPOD共通事業

② SPODオンラインセミナーシリーズ

日 時：令和6年11月14日（木）、29日（金）
12月6日（金）、12日（木）、20日（金）
各日13：00－15：00、15：30－17：30の2コマ実施
開催方法：オンライン（Zoom）
主催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）
参加者数：500人

SPODオンラインセミナーシリーズとは

SPODフォーラム2024への参加を予定していた全国の大学教職員に研修機会を提供するため、教職協働、IR、DX、生成AIなど昨今関心の高まっているテーマを中心にFD／SDプログラムをオンラインで実施。

実施内容及び成果

令和6年11月から12月にかけて、オンラインでSPODオンラインセミナーシリーズを開催し、5日に分けて10プログラムを実施した。全国の高等教育機関から合計500人が参加した。本セミナーについては、台風接近のため中止したSPODフォーラム2024に全国から多数の申し込みがあり、大学教職員の能力開発のニーズが依然として高いことから、オンラインでFD／SDプログラムを提供することを新たに企画したものである。教職協働、IR、DX、生成AIなど高等教育において関心の高まっているテーマを中心に、オンラインで受講しやすいよう講義型のプログラムを多く設定した。

1日目の11月14日（木）は、香川大学の小寺賢志氏、川瀬舞氏による「みんなでDX～ハンズオン入門編～」、「みんなでDX～ハンズオン実践編～」を実施し、Microsoft 365のサービスを利用した業務システムの開発について講義があった。参加者からは、「今までつまづいていた細かな部分の操作をスムーズに進めることができ、業務に応用できる自信がついた」「Power BIの具体的な使用例について知ることができて、とても参考になった」などの感想があった。

2日目の11月29日（金）は、徳島大学の井ノ崎敦子氏による「ハラスメント予防のためのアサーション」と愛媛大学の真鍋亮氏による「大学教職員のための教学IR入門」を実施し、グループワークや個人ワークを交えて、アサーティブ・コミュニケーションやデータ分析手法について説明があった。参加者からは、「ハラスメントの定義を見直すことができ、アサーティブな声かけ方法を学ぶことができた」「IRの考え方やデータ分析の留意点など重要な点を多々理解することができた」などの感想があった。

3日目の12月6日（金）は、徳島大学の飯尾健氏による「SPODオンラインFDコンテンツプラットフォームサイト（β版）の活用方法」と愛媛大学の清水栄子氏による「面談ステップを活用した学習支援」を実施し、サイトの活用方法や学生面談の進め方について講義やグループワークを交えて説明があった。参加者からは、「今

後の自己研鑽に必要な情報を得られた」「これまで自己流で面談を行っていたので、研修で学んだ5つのステップが参考になった」などの感想があった。

4日目の12月12日(木)は、香川大学の山中隆史氏による「心理的安全性の高いクラス運営と教員育成」と工学院大学の杉原明氏による「教職協働 vs. 教職分担ー大学職員の再考ー」を実施し、心理的安全性の高いチーム運営やトップマネジメントの視点からみた教職協働や大学組織の課題について説明があった。参加者からは、「心理的安全性を高める仕掛けがよくわかった」「教職協働について考えていく、改善していくための示唆をいただいた」などの感想があった。

5日目の12月20日(金)は、京都外国語大学の山崎その氏による「Z世代と管理職ー価値観の違いがパワーになる」と九州大学の森木銀河氏による「生成AIと歩むこれからの大学」を実施し、世代間の考え方や行動の違いや生成AI利用者に求められる知識について講義があった。参加者からは、「世代によって異なる環境や価値観について、わかりやすく言語化されていた」「ChatGPTの具体的な使用方法やメリットをよく知ることができた」などの感想があった。

全体の満足度も95.2%と高く、今後の業務や自己研鑽に活用しようとする感想が多数みられたことから、受講者のニーズに合った研修を提供することができたと考えている。SPOD事業においては、コロナ禍後、初めての大規模オンライン開催の事例であり、今回いただいた参加者の意見を参考にしながら、どのような形で今後研修を展開していくか検討していくこととしたい。

日 程	プログラム名	開催大学	受講者数			内訳人数			参加校数		満足度
			対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔	
11月14日(木)	みんなでDX～ハンズオン入門編～	愛媛大学	0	79	79	10	67	2	0	50	98.0
11月14日(木)	みんなでDX～ハンズオン実践編～	愛媛大学	0	64	64	7	56	1	0	45	91.9
11月29日(金)	ハラスメント予防のためのアサーション	愛媛大学	0	17	17	11	6	17	0	12	93.3
11月29日(金)	大学教職員のための教学IR入門	愛媛大学	0	66	66	13	52	1	0	47	100.0
12月6日(金)	「SPODオンラインFDコンテンツプラットフォームサイト(β版)」の活用方法	愛媛大学	0	13	13	7	6	0	0	13	75.0
12月6日(金)	面談ステップを活用した学習支援	愛媛大学	0	22	22	9	12	1	0	18	94.7
12月12日(木)	心理的安全性の高いクラス運営と教員育成	愛媛大学	0	24	24	15	8	1	0	19	100.0
12月12日(木)	教職協働vs.教職分担ー大学組織の再考ー	愛媛大学	0	76	76	13	60	3	0	51	89.4
12月20日(金)	Z世代と管理職ー価値観の違いがパワーになる	愛媛大学	0	55	55	9	44	2	0	39	94.6
12月20日(金)	生成AIと歩むこれからの大学	愛媛大学	0	84	84	20	63	1	0	54	100.0

SPODオンラインセミナーシリーズ

四国地区教職員能力開発ネットワーク（SPOD）では、高等教育機関の教職員の方々を対象とした、オンラインセミナーを以下の日程で開催いたします。教職協働、IR、DX、生成AIなどFD・SDで現在注目が高まっているテーマを幅広くそろえました。皆様のお申し込みをお待ちしております。

対象者
高等教育機関
の教職員

参加費
無 料

開催方法
Zoom

詳細は、
シラバス
をご確認
ください



■ スケジュール

※グループワークを実施するプログラムについては、マイク・カメラが使用できる環境でご参加ください
※個人ワーク有のプログラムは、資料のワークシートへの書き込みやPC上で作業を行う時間があります

	時間	プログラム	
11/14 (木)	13:00-15:00	みんなでDX～ハンズオン入門編～ 武田啓之・小寺賢志・川瀬舞（香川大学）	講義のみ
	15:30-17:30	みんなでDX～ハンズオン実践編～ 武田啓之・小寺賢志・川瀬舞（香川大学）	講義のみ
11/29 (金)	13:00-15:00	ハラスメント予防のためのアサーション 井ノ崎敦子（徳島大学）	グループワーク有
	15:30-17:30	大学教職員のための教学IR入門 真鍋亮（愛媛大学）	個人ワーク有
12/6 (金)	13:00-15:00	「SPODオンラインFDコンテンツプラット フォームサイト（β版）」の活用方法 飯尾健（徳島大学）	個人ワーク有
	15:30-17:30	面談ステップを活用した学習支援 清水栄子（愛媛大学）	グループワーク有
12/12 (木)	13:00-15:00	心理的安全性の高いクラス運営と教員育成 山中隆史（香川大学）	グループワーク有
	15:30-17:30	教職協働vs.教職分担－大学組織の再考－ 杉原明（工学院大学）	個人ワーク有
12/20 (金)	13:00-15:00	Z世代と管理職－価値観の違いがパワーになる 山崎その（京都外国語大学）	個人ワーク有
	15:30-17:30	生成AIと歩むこれからの大学 森木銀河（九州大学）	講義のみ

■ 受講の申し込みについて

期間：10月15日（火）～11月7日（木）

方法：申込フォームから必要事項をご入力ください

（URL）<https://forms.gle/M4229difpaAc8hdz6>



問い合わせ先 SPOD事務局（愛媛大学教育企画課） spod@stu.ehime-u.ac.jp

③ 第20回大学教育カンファレンス in 徳島

日 時：令和6年12月26日（木）
場 所：徳島大学常三島キャンパス（一部オンライン配信）
主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）／徳島大学
参 加 費：無料
申 込 者 数：161名（対面参加110名、オンライン参加51名）

大学教育カンファレンス in 徳島とは

これまでの教育活動の成果を検証し、教育実践研究を充実・発展させる機会となるよう、SPOD加盟校や他の高等教育機関で行われている教育実践の先駆的な取組を共有し、大学教育の質的向上に向けた努力の成果を確認する。

特徴

1. 口頭発表、ポスター発表、ワークショップ形式による研究発表を受け付ける
2. 特別講演及びディスカッションを実施する
3. 発表抄録集を作成し公開する（https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/4/6/6/5/7/7/_/__.pdf）

実施内容及び成果

令和6年度も昨年度に引き続き、徳島大学常三島キャンパスを会場として実施し、口頭発表、特別講演、ディスカッション及び発表者の希望によりワークショップCについては、オンライン配信を行うハイブリッド型で実施した。オンラインについては、1つのアカウント内にZoomのブレイクアウトルーム機能を活用して、発表会場ごとにルームを設置し、参加者は自由にルーム間を移動できるように設定した。参加者161名のうち、51名がオンラインでの参加であった。オンライン配信の運営についても、昨年度に引き続き、各会場には対面会場係やオンライン担当係を設置し、想定される対応事項について、事前に担当者間で動作確認を行い、ハイブリッド形式でのカンファレンスの運営に備えた。

特別講演では、東京科学大学リベラルアーツ研究教育院の岡田佐織氏による「大学における教養教育をどう考えるかー専門分野を超えた学びを実現するカリキュラム設計と組織運営ー」と題した講演が行われた。特別講演後には、指定討論者として愛媛大学教育・学生支援機構の中井俊樹氏より、「専門分野の知識と幅広い汎用的能力の葛藤」、「教養教育の実質化にトップ以外の各ステイクホルダーにできること」など、講演内容を実際の各大学における教養教育に落とし込むための5つの質問が提示された。さらに徳島大学 教養教育院院長の渡部稔教授も加わり、会場からの質問に回答するディスカッションを展開した。参加者は匿名で質問を投稿することができるLearn Wiz one を活用し、対面会場及びオンラインから19件もの質問が寄せられた。ディスカッションでは東京科学大学や徳島大学の取組を振り返り、今回の講演内容を今後の教養教育につなげていくための意見交換が行われた。

カンファレンスでは、参加者を対象にカンファレンス終了後にアンケートを実施しており、67名から回答を得た（回収率42%）。「a. 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた」、「b. 参加したことによって業務の取り組み方が改善され

と思う」、「c.カンファレンスの内容を十分に理解できた」という設問について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者が約90%であり、過去3年間に引き続き肯定的な回答を得ている。これは研究発表の内容や特別講演のテーマ設定が参加者のニーズや興味に合致していること、研究発表者の発表が工夫されていたこと、特別講演のテーマや講師が魅力的であることが要因の一つにあると考える。「d.他の参加者との交流を深めることができた」では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者は令和4年度と同様の結果となったが、対面のみで参加した回答者だけで見ると約75%が肯定的な回答をしており、オンラインで参加した回答者は約84%が否定的な回答をしていた。このことから、対面で参加した参加者同士では、他の参加者との意見交換などを通して交流を深めることができているが、オンラインでは参加者同士の交流を行うことが困難であることが分かる。

「有益であったプログラムをすべて選択してください（複数選択）」では、すべてのプログラムで選択率が80%以上であることから、参加者にとって有益な内容を提供できていたと推察できる。「e.特別講演の内容は興味深かった」という設問においても、参加した回答者（未回答を除く）のほとんどが、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答しており、自由記述では「東京科学大学の取組については非常に興味深く感じられた。理系中心の徳島大学として何を学ぶかを考えるべきと思われる」との意見があり、今後の教養教育について参考となる示唆が与えられたことや、各大学において今後の取組を考える機会となったことが分かる。また、「東京科学大学と、本学を含む四国の大学とでは環境等が違いすぎ、実際の本学の教育や授業運営の改善にすぐに役に立つかと言えば、少々疑問です」との意見も1つあり、特に今回の講演を踏まえて各大学が現実を踏まえつつどのような教養教育に取り組んでいくべきかを考えていくことが難しく、かつ重要なことであるといえる。東京科学大学でも簡単に現状の取組や仕組みを整えたわけではなく、この答えは当事者同士で議論して見出していくべきことだということもインプリケーションとして読み取れる。

一方で、課題としては、複数の参加者が指摘する点や大きなトラブルになった意見は挙げられていなかったが、自由記述からは、オンライン配信におけるトラブルや機器の性能による意見が挙げられている。この点は、今回の反省を活かして事前の確認や予備の体制などをあらかじめ整えておく必要がある。その他には、発表の質の問題、カンファレンスの開催時期、ディスカッションや発表の進行に関する意見が挙げられた。発表の質について、上述のように多様な参加者、発表があるという面もよい点として挙げられており、現状の発表者数がキャパを超えているわけではないことから、まだ発表を厳選する段階ではないと考える。実施時期についても、SPODフォーラムとの兼ね合いや授業が学会シーズンとの兼ね合いも踏まえて時期を検討していく必要がある。最後に進行については、各座長、司会が各所で時間を意識した運営ができるようにする必要があり、今回挙げられた意見を次年度以降の企画において活かしていきたい。



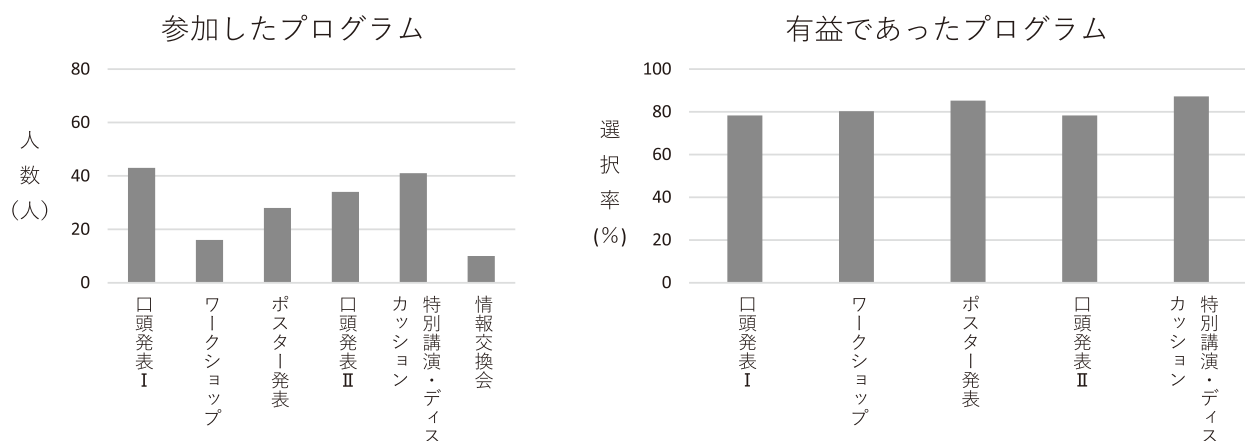


図 10 大学教育カンファレンスで参加したプログラムについて

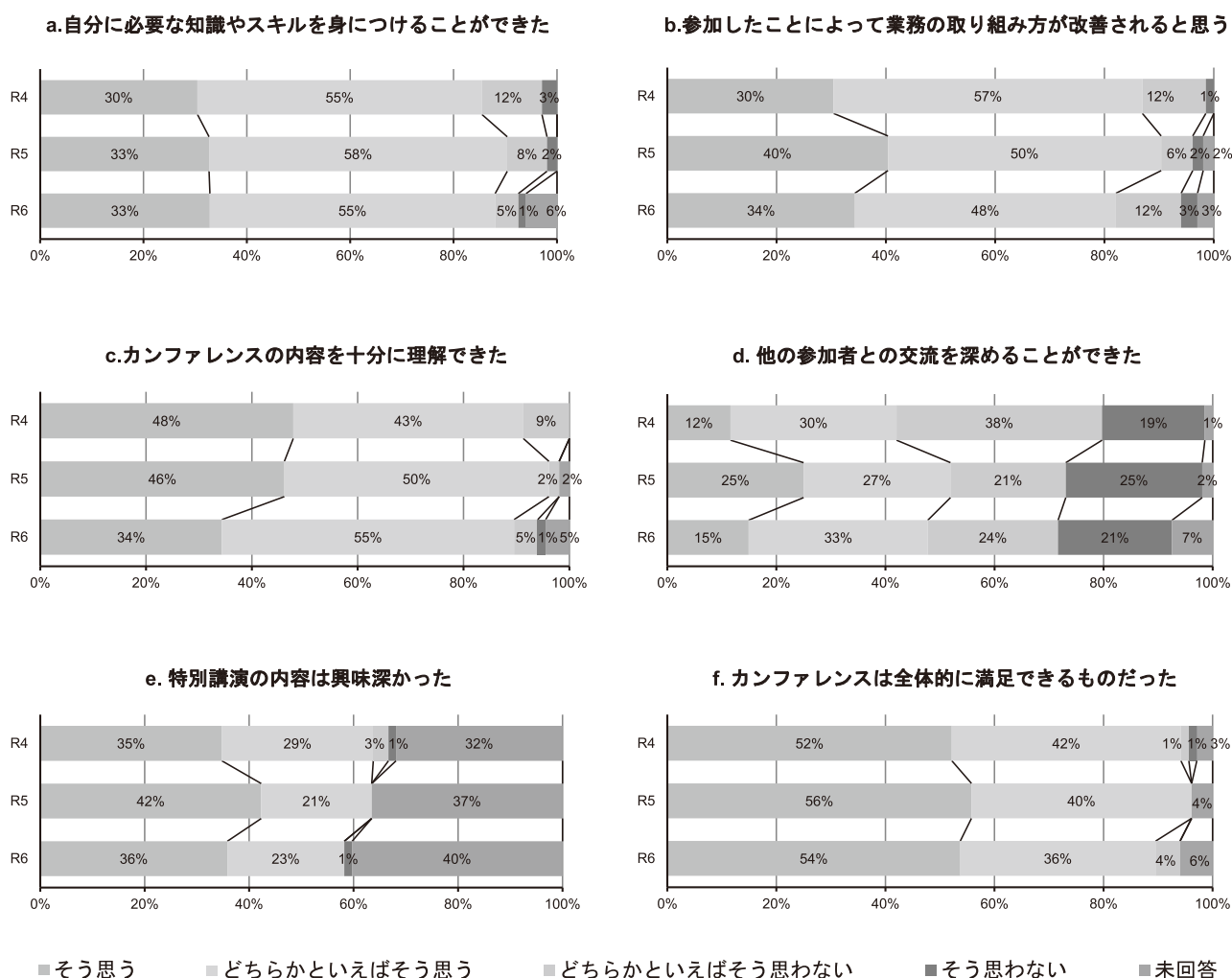


図 11 大学教育カンファレンスアンケート結果（過去 3 か年分）

出典：大学教育研究ジャーナル第 22 号「2024 年度徳島大学全学 FD 推進プログラムの実施報告」p. 52 より

④ SPOD内講師派遣

各加盟校が希望するプログラムについて、SPODから担当講師を年1回（1法人あたり年1回、高等専門学校は1校1回）派遣するSPOD内講師派遣事業を実施し、加盟校内の講師18名を36機関に派遣した。本事業により、FD・SD担当専任教員等の配置が困難な小規模校においても、自校で各種研修プログラムの開講が可能となっている。66の多岐にわたるプログラムを取り揃えており、派遣プログラム決定にあたっては、希望プログラムを選択した経緯や今後の各校のFD・SD活動の見通し、研修の目的や目標等について事前に調査を実施している。各加盟校におけるFD・SD活動等の方針に沿った活用ができることから、各加盟校からの評価も高く、組織等に与える影響も大きいと考えられる。

今年度の受講者は1, 114名であった。ほとんどのプログラムは対面開催であったが、オンライン開催の場合は、当日の参加以外に事後の録画視聴などを通じて、多くの教職員の受講を促している加盟校もあった。

開催日	プログラム名	開催校	対象	講師所属校	講師	開催形式	受講者数		参加校数
							対面	遠隔	
2024年5月30日（木）	事例から考えるハラスメント	高知健康科学大学	学内限定	愛媛大学	高木 佳代子	対面	25	0	1
2024年6月3日（月）	教職員のための「アングマネジメントの基礎」	高知工業高等専門学校	学内限定	人間環境大学	吉田 一恵	対面	52	0	1
2024年6月20日（木）	基礎から学ぶ学習評価法	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	学内限定	愛媛大学	中井 俊樹	対面	40	0	1
2024年6月21日（金）	試験問題・レポート課題の作り方	岡山理科大学獣医学部	学内限定	徳島大学	飯尾 健	対面	24	0	1
2024年6月26日（水）	教職員のための「アングマネジメントの基礎」	せとうち観光専門職短期大学	学内限定	人間環境大学	吉田 一恵	対面	16	0	1
2024年6月28日（金）	組織の力を引き出す観察力養成講座	徳島大学	学内限定	愛媛大学	仲道 雅輝	対面	36	0	1
2024年6月28日（金）	大学教職員の倫理－学生との関係を省察する	高知工科大学・高知県立大学	学内限定	愛媛大学	上月 翔太	対面・遠隔	100	0	2
2024年7月25日（木）	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	今治明德短期大学	学内限定	香川大学	西本 佳代	対面	22	0	1
2024年7月29日（月）	チームビルディング	愛媛県立医療技術大学	学内限定	愛媛大学	村田 晋也	対面	43	0	1
2024年8月21日（水）	大学教職員の倫理－学生との関係を省察する	香川県立保健医療大学	学内限定	愛媛大学	上月 翔太	対面	33	0	1
2024年9月3日（火）	成績不振・不登校学生対応事例による学生支援体制の構築	高松大学・高松短期大学	学内限定	高知大学	杉田 郁代	遠隔	0	46	1
2024年9月3日（火）	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	松山大学・松山短期大学	学内限定	愛媛大学	阿部 光伸	対面	57	0	1
2024年9月5日（木）	これからの教職協働	人間環境大学松山看護学部及び総合心理学部	学内限定	愛媛大学	清水 栄子	対面	47	0	1
2024年9月10日（火）	これからの教職協働	香川短期大学	学内限定	愛媛大学	清水 栄子	対面	37	0	1
2024年9月10日（火）	現代学生の理解と関わり方	四国大学・四国大学短期大学部	県内のSPOD加盟校開放	香川大学	小坂 有資	遠隔	0	159	1
2024年9月11日（水）	やってみよう！テキストマイニング－基礎編	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	学内限定	徳島大学	塩川 奈々美	対面	22	0	1
2024年9月17日（火）	教学IR入門	弓削商船高等専門学校	学内限定	愛媛大学	真鍋 亮	対面	32	0	1
2024年9月18日（水）	その言葉・対応は、危険です！－保護者からの要望への対応	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	未定もしくは上記以外	阿南工業高等専門学校	安田 武司	対面	65	0	2
2024年9月19日（木）	これからの教職協働	鳴門教育大学	学内限定	愛媛大学	清水 栄子	対面	32	0	1
2024年9月20日（金）	教職員のための「アングマネジメントの基礎」	香川大学	学内限定	人間環境大学	吉田 一恵	対面	14	0	1
2024年9月20日（金）	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	徳島工業短期大学	SPOD加盟校開放	香川大学	蝶 慎一	対面	13	0	2
2024年9月20日（金）	チームビルディング	香川高等専門学校	SPOD加盟校開放	愛媛大学	村田 晋也	対面	17	0	2
2024年9月26日（木）	数からみたカリキュラム－授業科目数の適正化に向けて	高知大学	学内限定	愛媛大学	上月 翔太	対面	12	0	1
2024年9月27日（金）	組織の円滑な運営のためのストレスマネジメント－自己理解と他者理解	阿南工業高等専門学校	学内限定	香川大学	野口 里美	対面	18	0	1
2024年11月22日（金）	現代学生の理解と関わり方	新居浜工業高等専門学校	学内限定	香川大学	小坂 有資	対面	67	0	1
2024年11月29日（金）	職員のための企画力養成講座	愛媛大学	学内限定	愛媛大学	丸山 智子	対面	17	0	1
2025年2月18日（火）	現代学生の理解と関わり方	高知リハビリテーション専門職大学・高知学園大学・高知学園短期大学	学内限定	香川大学	小坂 有資	対面	68	0	3

⑤ FD・SDに関する調査研究

FD専門部会においては、SPOD将来構想のFDの方針に基づきチームを結成し、各チームがプロジェクトの実現に向けて調査研究や定期的なミーティングを実施している。今年度はSPODフォーラム2024のポスターセッションでTA・SA制度に関するSPOD内調査の結果に関する研究発表やSPODオンラインFDコンテンツプラットフォームサイト（β版）のリリースなどを行い、各チームで取り組んできたことを加盟校内外に還元することができた。また、分野別FDの開発にも加盟校の教員と協働して取り組んでおり、SPODフォーラム2025のプログラムとして実施することを予定している。

SD専門部会においては、SPOD将来構想のSDの方針に基づく「次世代を切り拓く大学職員の育成に関する検討ワーキンググループ」を令和5年度から設置している。今年度は、次世代リーダー養成ゼミナール修了生やSPOD-SDC資格取得者、コア校のSD担当者らにより構成される3つの検討グループで、研修プログラムの体系化・見直し、SPOD-SDCの活用、加盟校へのニーズ調査に重点的に取り組んだ。各検討グループの成果、提案についてはSD専門部会の中で共有されるとともに、年度末の総会でSDに関する改善提案がなされた。来年度以降は総会で承認された提案を基にSDプログラムの見直し、SPOD-SDCの活用などに着手し、SPOD将来構想実現に向けた取組をさらに推進していく予定である。

⑥ 情報提供サービス

SPODでは、活動内容やその成果の周知のため「研修プログラムガイド」「活動報告書」「ホームページ更新・管理、メールマガジンの発行」等を中心に情報提供を行っている。また、愛媛大学がY o u T u b eで運営している「愛媛大学FD・SDチャンネル」では、過去のSPODフォーラムの様子を公開しているほか、FD専門部会が作成したコンテンツサイトについては、ホームページやメーリングリストで周知を行った。

1) 研修プログラムガイド2024の発行

SPODでは、加盟校内で開催され、かつ加盟校教職員が相互に参加可能なFD・SDプログラムを網羅的に掲載した研修プログラムガイドを毎年発行し、ホームページに公開している。これにより、各加盟校の教職員は、自身の希望するプログラムを計画的に受講することができる。

2) 令和6年度SPOD活動報告書の発行

当該年度のSPOD事業の活動をまとめた「SPOD活動報告書」を毎年作成し、ホームページで公開している。また、本報告書を基に、SPOD事業評価委員による今年度の事業評価を行った。

3) ホームページ更新・管理、メールマガジンの発行

各種プログラムの開催情報や研修資料、会議の議事概要や資料等をSPODホームページへ掲載した。また、研修等のイベントやSPODに関する各種情報などについて発信を行うSPODメールマガジンを、約300名（全加盟校SPOD事務担当者を含む）の登録者に向けて配信した。さらに、加盟校からのイベント等の開催案内を、加盟校内においてメール等で情報共有するなど、ネットワークを活かした情報発信を行っている。

ホームページについては、今年度末にリニューアルを予定しており、イベント情報の発信や動画コンテンツの充実を図ることとしている。

4) SPODフォーラムやFD／SD動画の公開

過去のSPODフォーラムのダイジェスト及び一部のプログラムの動画を愛媛大学FD・SDチャンネル」に公開しており、これまで合計4,000回以上視聴されている。また、FD専門部会が作成したコンテンツサイトについては、全国の高等教育機関教職員の利用を推進するため、ホームページへのバナー掲載やメーリングリスト等を通じて全国の高等教育機関に周知を行った。



(2) FD事業

① FD担当者研修

FDを企画・運営・評価するために必要となる基礎的な知識と技能の習得を目的として、「FD担当者のためのFD企画講座」をSPODフォーラムで実施を予定していたが、台風10号接近のため中止となった。7機関から9人の申し込みがあった。次回のSPODフォーラム2025では、加盟校からのニーズが高まっている分野別FD担当者研修ほか、指導補助者養成のためのブレFD担当者研修を実施を計画している。



SPOD フォーラム 2023 実施時の様子

② 新任教員研修

本研修は、各コア校が主催する新任教員研修のどれを受講しても同様の効果を得られるよう、コア校間でプログラムを標準化している。今年度は、加盟校5校から63人（国立大学3校56人、私立大学2校7人）の教員が参加し、満足は98.1%であった。

日 程	プログラム名	開催校	受講者数	参加校数 (延べ)	満足度 (%)
6月1日(土)～2日(日)	授業デザインワークショップ	愛媛大学	23	3	100
8月22日(木)～8月23日(金)	授業設計ワークショップ	徳島大学	21	4	100
9月5日(木)～6日(金)	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	高知大学	19	1	92.3
			63	8	98.1

標準化された本プログラムは、授業設計やシラバスの作成方法について主にグループワーク形式で学ぶものである。本プログラムは新任教員以外も受講が可能であり、自身の授業を見直すきっかけになるとともに授業改善に役立つ内容となっている。受講者からは「シラバスの作成について学ぶことができ、グループワークの中でも評価のタイミングや方法について様々な工夫を知ることができた」「模擬授業で弱点が見えたので、今後は発問を積極的に取り入れてみようと思った」等のコメントがあった。

また、徳島大学開催の「授業設計ワークショップ」では、講義部分を事前に動画教材で学習し、事前課題を提出後に研修に参加するという「反転授業」形式を取り入れている。講義時間の短縮に加え、事前に研修の目的や内容を理解した上で参加できるため、受講者からも効率的に受講できるとの声がある。



③ ティーチング・ポートフォリオ研修

愛媛大学で「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」を開催し、加盟校3校から

20人が参加し、満足度は93.8%であった。

受講後のアンケートでは、「教育の理念や方法などを明確に言語化し整理する良い機会となり、今後の教育活動を組み立てていく上でも大いに参考になった」「所属の目標や方針の中で、自分がどのような役割を担うべきか考えたことで、大学教員としての立ち位置がよりクリアになった」等のコメントがあり、参加者の今後の教育活動にとって有益なものになっていることが窺える。本研修は、今後のワークショップで必要となるメンターの育成も目的の一つとしており、受講者のメンタリングスキル習得のためのプログラムも兼ねている。

また、徳島大学ではワークシートで教育活動の振り返り、教育理念を明確にするティーチング・ポートフォリオ・チャート作成ワークショップを開催し、徳島大学から3人が参加した。



日 程	プログラム名	開催校	受講者数	参加校数	満足度 (%)
9月4日(水)	ティーチング・ポートフォリオ・チャート作成ワークショップ	徳島大学	3	1	66.7
9月12日(木)～13日(金)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	愛媛大学	20	3	93.8
			23	4	89.5

④ 各種FDプログラムの開発・実施

過去のアンケート結果や教育現場の課題を踏まえ、アクティブ・ラーニングや学習評価、シラバス作成法、講義法等多岐にわたるプログラムを開講した。研修の多くは対面で実施しているが、オンデマンド教材やオンライン掲示板での意見交換など非同期の学習を組み込み、研修の効率化や会場での応用・実践に重点を置いて実施しているプログラムもある。また、徳島大学、香川大学、高知大学の3校合同で、オンラインセミナーを木曜日の昼休みの時間帯に定期的で開催しており、その気軽さから年々参加者数が増加している。

FD専門部会では、コア校が開発したFDに関する動画や資料を取りまとめたサイトの運用を開始し、全国どこからでもSPODのFDコンテンツにアクセスできる状況を整備した。

新任教員研修プログラムの基準枠組対応表

国立教育政策研究所が作成した 新任教員研修プログラムの基準枠組		実施 区分	徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学
学習領域	学習目標		研修名:授業設計ワークショップ	研修名:よりよい授業のための FDワークショップ	研修名:授業デザインワークショップ	研修名:学生の学びを支援する 授業準備ワークショップ
			日程:2日間	日程:2日間	日程:2日間	日程:2日間
1. 大学コミュニ ティーについて の理解	1-1 大学に関す る基礎知識を得る。	各大学	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション
	1-2 同僚とのコ ミュニケーションをと る。	共通	「授業設計ワークショップ」研修全体を通して	「よりよい授業のためのFDワークショップ」 研修全体を通して	「授業デザインワークショップ」 研修全体を通して	「学生の学びを支援する授業準備ワークシッ プ」 研修全体を通して
2. 授業のデザイ ン(目標設定、 実施計画、成績 評価)	2-1 授業デザイ ンのための基礎知 識を得る。	共通	事前学習教材「0: イントロダクション」「1: 授業 の目的と到達目標」「2: 評価」「3: 授業計画」 ワーク「授業設計の基本」 講義・ワーク「授業計画」	グループワークⅠ「学生の考える良い授業」 講義Ⅰ「シラバスの書き方」	事前学習「シラバス作成」 ミニ講義「授業設計」 ミニ講義「授業実践」 ミニ講義「学習評価」	グループワークⅠ「良い授業とは？」 ミニレクチャーⅠ「目標設定と授業計画、シラバ スの書き方」 ミニレクチャーⅡ「成績評価」 ミニレクチャーⅢ「様々な授業方法と授業の工 夫」
	2-2 授業デザイ ンのためのスキルを 修得する。	共通	事前学習教材「0: イントロダクション」「1: 授業 の目的と到達目標」「2: 評価」「3: 授業計画」 ワーク「授業設計の基本」 講義・ワーク「授業計画」	グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」	「授業に関するお悩み相談会」 個人ワーク「担当科目のシラバスと90分の授 業案作成」 グループワーク「シラバスと授業案に対するピア ・レビュー」	グループワークⅠ「良い授業とは？」 グループワークⅡ「共通教育科目の開発①」
3. 教育の実践	3-1 教育実践に 関する基礎知識を 習得する。	共通	事前学習教材「0: イントロダクション」「1: 授業 の目的と到達目標」「2: 評価」「3: 授業計画」 ワーク「授業設計の基本」 講義・ワーク「授業計画」 模擬授業実施	講義Ⅱ「学生参加型授業の技法」	事前動画「アクティブラーニング」 ミニ講義「授業実践」 ミニ講義「大学教員の倫理」	ミニレクチャーⅢ「様々な授業方法と授業の工 夫」
	3-2 学習者中心 の授業および学習 支援を実現し、学生 の学習を促進する。	共通	事前学習教材「0: イントロダクション」「1: 授業 の目的と到達目標」「3: 授業計画」 ワーク「授業設計の基本」 ワーク「自身の教育理念」 講義・ワーク「授業計画」 模擬授業実施	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「最終発表」	「授業に関するお悩み相談会」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「模擬授業」
	3-3 学生と適切 なコミュニケーション をとる。	共通	事前学習教材「0: イントロダクション」「1: 授業 の目的と到達目標」「2: 評価」「3: 授業計画」 ワーク「授業設計の基本」 ワーク「自身の教育理念」 講義・ワーク「授業計画」 模擬授業実施	講義Ⅱ「学生参加型授業の技法」 グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「最終発表」	事前動画「アクティブラーニング」 ミニ講義「授業実践」 ミニ講義「大学教員の倫理」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「模擬授業」
4. 成績の評価、 フィードバック	4-1 教育の評価 やフィードバックに ついての基礎知識 を得る。	共通	事前学習教材「2: 評価」 ワーク「授業設計の基本」 模擬授業実施	講義Ⅲ「よりよい学習評価のために」	ミニ講義「学習評価」 ミニ講義「大学教員の倫理」	ミニレクチャーⅡ「成績評価」
	4-2 適切な成績 評価およびフィード バックを行う。	共通	事前学習教材「2: 評価」 ワーク「授業設計の基本」 模擬授業実施	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「最終発表」	「授業に関するお悩み相談会」 個人ワーク「担当科目のシラバスと90分の授 業案作成」 グループワーク「シラバスと授業案に対するピア ・レビュー」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「模擬授業」
5. 教育活動の 自己改善・キャリ ア開発、教育開 発	5-1 授業改善・ キャリア開発や教育 開発に関する基礎 知識を習得する。	共通	ワーク「自身の教育理念」 模擬授業準備、実施 模擬授業の振り返り プログラムのまとめ	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「最終発表」	「授業に関するお悩み相談会」 個人ワーク「担当科目のシラバスと90分の授 業案作成」 グループワーク「シラバスと授業案に対するピア ・レビュー」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「模擬授業」
	5-2 自己改善・ キャリア開発や教育 開発のためのスキル を修得する。	共通	ワーク「自身の教育理念」 模擬授業準備、実施 模擬授業の振り返り プログラムのまとめ	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「最終発表」	「授業に関するお悩み相談会」 個人ワーク「担当科目のシラバスと90分の授 業案作成」 グループワーク「シラバスと授業案に対するピア ・レビュー」 「模擬授業」 振り返り	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「模擬授業」

令和6年度SPOD FD、FD・SD共通、プレFDプログラム

令和7年3月1日現在

FD事業

新任教員研修

日 程	プログラム名	開催大学	受講者数			内訳人数			参加校数		満足度
			対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔	
6月1日(土)・2日(日)	授業デザインワークショップ	愛媛大学	23	0	23	23	0	0	3	0	100.0
8月22日(木)・23日(金)	授業設計ワークショップ	徳島大学	21	0	21	21	0	0	4	0	100.0
9月5日(木)・6日(金)	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	高知大学	19	0	19	19	0	0	1	0	92.3

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

日 程	プログラム名	開催大学	受講者数			内訳人数			参加校数		満足度
			対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔	
9月4日(水)	ティーチング・ポートフォリオチャート作成ワークショップ	徳島大学	3	0	3	3	0	0	1	0	66.7
9月4日(水)～6日(金)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ (定員不充足のため中止)	徳島大学									
9月12日(木)・13日(金)	ティーチング・ポートフォリオ作成・更新ワークショップ	愛媛大学	20	0	20	20	0	0	2	0	93.8
9月12日(木)・13日(金)	アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ (定員不充足のため中止)	愛媛大学									

その他FD、SD、FD/SD共通、総合プログラム

日 程	プログラム名	開催大学	受講者数			内訳人数			参加校数		満足度
			対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔	
4月11日(木)	合理的配慮の必要な学生に向けた授業づくり 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	79	79	70	9	0	0	14	94.3
4月18日(木)	合理的配慮の必要な学生に向けた授業づくり 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	64	64	58	6	0	0	14	100.0
4月18日(木)	チームビルディング	愛媛大学	8	0	8	7	0	1	1	0	100.0
5月9日(木)	オンラインツールを活用した双方向型授業 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	80	80	73	7	0	0	17	97.9
5月16日(木)	オンラインツールを活用した双方向型授業 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	67	67	60	7	0	0	14	100.0
6月13日(木)	収集された学生データの活用方法—教学IRに向けて— 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	82	82	70	12	0	0	16	92.1
6月20日(木)	収集された学生データの活用方法—教学IRに向けて— 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	66	66	53	13	0	0	13	96.8
7月1日(月)～31日(水)	プロジェクトマネジメント	愛媛大学	0	36	36	32	3	1	0	6	83.9
7月2日(火)	大人数講義法の基本	愛媛大学	0	25	25	24	0	1	0	4	95.0
7月11日(木)	授業とAIの幸福な関係を考える 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	70	70	62	8	0	0	15	100.0
7月18日(木)	授業とAIの幸福な関係を考える 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	55	55	47	8	0	0	13	100.0
7月16日(火)	学習評価の基本	愛媛大学	13	0	13	12	0	1	2	0	100.0
7月18日(木)	アクティブラーニング入門セミナー	愛媛大学	15	0	15	14	0	1	2	0	100.0
8月1日(木)	大学の危機管理—ハラスメント対応	愛媛大学	20	0	20	14	6	0	2	0	100.0
9月4日(水)	対面授業でも活用できるオンラインツールを体験しよう	高知大学	15	0	15	14	1	0	6	0	100.0
9月4日(水)	高等教育政策論	愛媛大学	19	0	19	13	6	0	2	0	100.0
9月4日(水)	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン—考え方と進め方—	高知大学	7	0	7	7	0	0	3	0	85.7
9月5日(木)	eラーニング活用(入門編)—学習支援システムMoodleソフトを活用してきめ細やかな学習支援を実現しよう—	愛媛大学	6	0	6	4	2	0	3	0	100.0
9月10日(火)	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 —課題分析図の活用—	愛媛大学	4	0	4	4	0	0	2	0	100.0
9月10日(火)	ARCS動機づけモデルを活用した学習意欲を高める授業設計	愛媛大学	4	0	4	4	0	0	2	0	100.0

その他FD、SD、FD/SD共通、総合プログラム

日 程	プログラム名	開催大学	受講者数			内訳人数			参加校数		満足度
			対面	遠隔	計	教員	職員	その他	対面	遠隔	
9月12日(木)	授業実践の成果を発表しよう 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	48	48	43	5	0	0	10	95.2
9月19日(木)	授業実践の成果を発表しよう 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	51	51	45	6	0	0	12	100.0
9月17日(火)	動画教材作成法	愛媛大学	11	0	11	11	0	0	3	0	100.0
10月10日(木)	学生の学習への動機づけを高める授業づくり 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	65	65	61	4	0	0	13	100.0
10月17日(木)	学生の学習への動機づけを高める授業づくり 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	63	63	58	5	0	0	10	100.0
11月14日(木)	複数の方法を組み合わせた多面的な学習評価の提案 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	66	66	61	5	0	0	15	100.0
11月21日(木)	複数の方法を組み合わせた多面的な学習評価の提案 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	57	57	51	6	0	0	15	100.0
12月6日(金)～1月31日(金)	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	愛媛大学	0	21	21	21	0	0	0	6	100.0
12月12日(木)	学生支援の動向と体制づくりー障害学生支援に焦点を当ててー 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	54	54	44	10	0	0	14	100.0
12月19日(木)	学生支援の動向と体制づくりー障害学生支援に焦点を当ててー 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	57	57	46	11	57	0	15	94.4
12月25日(水)	学生の学びを促すシラバスの書き方	香川大学	3	0	3	3	0	0	2	0	100.0
12月25日(水)	学生参加型授業の技法	香川大学	3	0	3	3	0	0	2	0	100.0
12月25日(水)	基礎から学ぶ学習評価法	香川大学	2	0	2	2	0	0	1	0	100.0
12月26日(木)	シラバス・授業を改善しよう！	香川大学	4	0	4	4	0	0	2	0	100.0
1月9日(木)	学生の学習を促す試験問題・レポート課題の作り方 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	74	74	67	7	0	0	17	100.0
1月16日(木)	学生の学習を促す試験問題・レポート課題の作り方 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	78	78	71	5	2	0	16	100.0
1月31日(金)	効果的な広報戦略について	愛媛大学	16	6	22	6	16	0	7	5	75.0
2月3日(月)	グループワークのためのファシリテーション入門	高知大学	21	0	21	21	0	0	2	0	95.2
2月3日(月)	新任教員のためのリフレクションセミナー	高知大学	13	0	13	13	0	0	4	0	91.7
2月13日(木)	障害学生に対するキャリア支援 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	68	68	51	17	68	0	15	100.0
2月14日(金)	留学生とのコミュニケーション	愛媛大学	9	0	9	9	0	0	1	0	100.0
2月20日(木)	障害学生に対するキャリア支援 授業について考えるランチセミナー	徳島大学 香川大学 高知大学	0	60	60	49	11	60	0	14	94.7

(3) SD事業

① 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム

今年度実施した「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（新任、レベルⅠ～Ⅲ）」の研修では、加盟校17校から合計237人（国立大学5校182人、公立大学3校18名、私立大学・短期大学8校42人、高等専門学校1校2名）の職員が参加した。



このうち、5月に高知大学主催で開催された新任職員研修は、四国地区の国公立大学等の新任職員が集まる研修で、四国4県の持ち回りで毎年実施している。本研修は、職員として必要な基礎知識の習得だけでなく、設置形態を越えた職員間の相互交流・関係づくりの場を提供することも目的としており、受講者からは、「参加するまでは、基本的な職務内容や職員としての心構えを理解できていなかったが、今回の研修で多くのことを学び、大学職員及び社会人として必要となる能力の基礎的な知識を身に付けることができた。」「高等教育等に関する知識や社会人としての基礎的なマナー等について、自身の業務に直結する内容であったため、すぐに活かすことができると感じた。」「各研修内外において初対面の職員の方々と対話をし親睦を深めることが、コミュニケーションの練習になった。対面で行うことに非常に大きな意味を感じた有意義な研修であった。」等のコメントが多数寄せられた。

また、係長、主任相当級の職員を対象とするレベルⅡは、例年、受講希望者が多く、受講希望者のニーズに応えるため、今年度も6月と11月の2回開催し、あわせて63人が参加した。なお、11月の2回目は、次世代リーダー養成ゼミナール（第4回）と同時開催した。講義では、実際に企画書を作成したり、身近な事例をもとにグループで意見交換し発表資料を作成したりするなど、実務的なワークを多数行った。受講者からも「何気なくこなしている部下との接し方や企画の立案、提案など、改めて理論や方法を学んだことによって、自分が今できていることと不足していることが明確に見えてきた。」「グループワークをすることにより、自分の考えを整理し発言し、またグループ内の意見を聞くことで更に深く学ぶことができた。」等、中堅職員としての自身のスキルや実践的な内容における気づきに関するコメントが多くみられた。

■大学人・社会人としての基礎力養成プログラム

日 程	プログラム名	開催場所	受講者数	参加校数	満足度 (%)
5月15日（水）～17日（金）	新任職員	高知県内	123	16	98.3
6月20日（木）～21日（金）	レベルⅡ（1回目）	愛媛大学	29	10	96.2
10月3日（木）～4日（金）	レベルⅢ	愛媛大学	28	11	100.0
10月31日（木）～11月1日（金）	レベルⅠ	愛媛大学	30	10	100.0
11月21日（木）～22日（金）	レベルⅡ（2回目）	徳島大学	27	10	93.8
合 計			237	57	97.8

② 次世代リーダー養成プログラムの実施

「次世代リーダー養成ゼミナール」は、将来、所属大学のトップリーダーや高等教育界のリーダーとして大学等の経営を担うために必要な知識、技能、態度を身につけた人材を養成することを目的としている。今年度は、13期生7人（国立大学4校4人、公立大学1校2人、私立大学1校1人）で実施した。プログラムは「講義」「プロジェクト」「SD実践・演習」の3つの柱で構成されており、受講生には主体的・自主的に学ぶ姿勢が求められる。ゼミナールを修了するためには、毎回課されるレポートやプレゼンテーション課題をこなす必要があり、各自が企画したプロジェクトの実施とそのレポート作成も含まれる。なお、昨年度からの受講期間短縮に伴い、受講生の縦のつながり、交流の機会が失われるため、受講した翌年度の第1回次世代リーダー養成ゼミナールを前年度修了生の発表会としている。また、開催県の大学に在籍している修了生に、プログラムの視察及び受講生へのアドバイスを依頼することにより、交流の機会を確保した。

今期7人が修了したことにより、本ゼミナール修了生は90人となった。修了生は、ゼミナールの経験を活かし、各所属機関で責任あるポストに配属されて様々な業務の企画・実施を行ったり、SPODや学内外の研修講師を務めたりしている。また、積極的に「SPODスタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（以下、SPOD-SDC）」の資格を取得する者も多い。

なお、本ゼミナールの一部講義は、高等教育の第一人者を講師に招いて開講しており、ゼミナール受講生以外も受講できるよう、SPOD加盟校の教職員にも開放している。今年度は延べ13人が開放講義に参加した。



■次世代リーダー養成ゼミナール

日 程		開催場所	受講者数			参加校数	満足度 (%)
			対面	遠隔	計		
第1回	5月22日（水）～24日（金）	愛媛大学	7		7	6	-
第2回	7月11日（木）～12日（金）	香川大学	7		7	6	-
第3回	10月17日（木）～18日（金）	高知大学	7		7	6	-
第4回（※）	11月21日（木）～22日（金）	徳島大学	7		7	6	-
第5回	1月23日（木）～24日（金）	愛媛大学	7		7	6	-
合 計			35	0	35	30	85.7

※第4回は、大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅡ）と同時開催

■プロジェクトの紹介（13期生）

プロジェクト名	所属・氏名
徳島大学版「心のサポーター」養成プロジェクト	徳島大学 総務部人事課常三島職員係 黒元 健司
人事評価とフィードバックの重要性の周知活動	香川大学 財務部財務企画課 主任 林 竜也
Teams による業務効率化の現状と展開	愛媛大学 総務部評価 IR 課 チームリーダー 西村 亘平
プリンタに費やすコスト削減	高知大学 医学部・病院事務部会計課医学情報処理係 主任 友永 貴久
学生支援体制の強化に向けた組織合併後における協働の仕組みづくり	高知県立大学 教育・学生支援部教務・学生支援課 主任 古賀 久美子
図書館ガイダンスの試行開催	高知県立大学 図書部図書課 主任 原田 明徳
松山大学事務職員「タスク管理表」ブラッシュアッププロジェクト	松山大学 総務部庶務課 池田 幸二郎

■SPOD加盟校の職員に開放した講義

※受講者数はゼミナール生を除く人数

日 程	プログラム名	開催場所	受講者数			参加 校数
			対面	遠隔	計	
10月17日（木）	第3回 「高等教育政策論」（茨城大学 大津正知 氏）	高知大学	7		7	3
10月17日（木）	第3回 「大学マネジメント論」（近畿大学 竹中喜一 氏）	高知大学	6		6	3
合 計			13	0	13	6

③ SD担当者研修の実施

SPODフォーラム2024のプログラムとして、「SD担当者研修—計画と運営の基礎を学ぶ—」を開催する予定であったが、台風接近のため中止を余儀なくされた。

次年度は、SPODフォーラム2025で2コマ連続のプログラム「はじめてでもできるSD研修の企画・運営・評価」として開催を予定している。

④ SPOD-SDCの輩出

SPOD-SDCは、職員の能力開発に関する知識・技術を修得していると認定された教職員に付与される。SPODでは、各大学等のSDの自立的運営を目指しており、各加盟校が「SDの義務化」に対応し、自校のSD事業を推進できるよう、SPOD-SDC資格取得者の輩出を積極的に支援している。今年度は1人が新規に認定された。これまでの資格認定者は41人にのぼり、それぞれが自校及び学外でのSD推進に貢献している。今後も、資格認定者輩出に向けた取組を継続的に実施していく。

四国地区大学教職員能力開発ネットワークにおける スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定に関する申合せ 平成26年11月19日

(趣旨)

第1条 この申合せは、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（以下「SPOD」という。）において、職員の能力開発（以下「SD」という。）に関する知識・技術を修得し、自大学及びSPOD加盟校におけるSDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者の資格認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(資格の名称)

第2条 資格の名称は、「SPOD—スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター (Staff Development Coordinator)」(以下「SPOD—SDC」という。)とする。

(資格の認定)

第3条 SPOD—SDCの資格の認定は、別紙に定める認定基準を満たし、かつ、SPOD加盟校人事課長又はSD担当課長相当が別紙様式1により推薦する自大学の教職員に対して、SPODが別紙様式2の資格認定証書を授与することによって行う。

2 前項の資格認定証書は、SD専門部会において研修プログラム受講歴及び研修講師歴等を踏まえ審査し、SPODネットワークコア運営協議会が承認した者に授与する。

(資格の有効期間)

第4条 SPOD—SDC資格の有効期間は、認定日から、SPOD事業の運営終了日までとする。

(資格認定・授与原簿)

第5条 SPOD—SDC資格を認定して資格認定証書を授与したとき、及び第7条に規定する資格の取消しを行ったときは、別紙様式3のSPOD—SDC認定・授与原簿に所定の事項を記入するものとする。

(資格認定証書の再交付)

第6条 資格認定証書を破損又は紛失したときは、再交付を受けることができるものとする。

(資格の取消し)

第7条 SPOD—SDC資格を認定された者が、刑事罰又は行政罰等を受けたときは、当該資格を取り消すことができるものとする。

(事務)

第8条 SPOD—SDC資格認定に関する事務は、SPOD事務局において処理する。

(雑則)

第9条 この申合せに定めるもののほか、SPOD—SDCの認定に関し必要な事項は、SPODネットワークコア運営協議会が別に定める。

附 則

1 この申合せは、平成26年11月19日から施行する。

2 この申合せの施行の際、現に認定されている者については、第3条に規定する資格認定証書を授与する。

【別 紙】

SPOD—スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準

SPOD—スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準は、次のとおりとする。

1. SPOD—SD（又は自大学におけるSD）講師を務めることができる。
2. 職員のキャリアプランニングをサポートすることができる。
3. 大学等における職員人材育成ビジョンの構築方法について説明することができる。
4. 大学等におけるSDプログラムの企画・立案ができる。
5. スタッフ・ポートフォリオの有益性を説明することができる。

(4) SPOD運営

コア校のFD・SD担当者等が一堂に会し、教職協働でSPOD事業の実施、運営上の諸課題を検討するネットワークコア運営協議会を7回開催し、うち1回は、徳島大学において対面で開催した。本協議会では、SPOD事業の進捗状況の報告の他、事業経費の執行、次年度の事業計画及び事業経費等についての検討を行っている。また、協議会終了後には、各加盟校への情報提供として、協議会の議事概要や配付資料をSPODホームページに掲載している。

さらに、コア校のFD・SD担当者それぞれで構成する専門部会を開催し（FD専門部会：計6回、SD専門部会：計7回）、SPOD将来構想に基づく取組、各事業の進捗状況や成果及び今後の課題等について意見交換を行った。また、徳島大学では、昨年度に引き続き徳島県内加盟校会議（T-SPOD会議）を開催して情報共有や意見交換を行った。

3月5日（水）には、事業評価委員会を開催し、令和5年度から令和6年度に実施した事業内容を基に、事業評価委員から国内外の参考事例や改善点について意見を伺い、今後どのようにSPOD事業を発展させていくか考える契機とした。

令和6年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会議開催日程

令和6年 4月23日（火）	第1回SPODネットワークコア運営協議会（オンライン会議）
5月21日（火）	第2回SPODネットワークコア運営協議会（オンライン会議）
7月24日（水）	第3回SPODネットワークコア運営協議会（オンライン会議）
9月10日（火）	第4回SPODネットワークコア運営協議会（オンライン会議）
10月28日（月）	第5回SPODネットワークコア運営協議会（オンライン会議）
11月8日（金）	第1回T-SPOD会議（会場：徳島大学）
12月27日（金）	第6回SPODネットワークコア運営協議会（会場：徳島大学） ※オンライン併用
令和7年 2月13日（木）	第7回SPODネットワークコア運営協議会（オンライン会議）
3月5日（水）	令和6年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業評価委員会 （オンライン会議）
3月10日（月）	令和6年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査 （オンライン会議）
3月中旬～下旬	令和6年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会（書面審議）

6. 令和6年度各加盟校の取組報告

目 次

徳島県

徳島大学（国）	38
鳴門教育大学（国）	39
四国大学・四国大学短期大学部（私）	40
徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部（私）	41
徳島工業短期大学（私）	42
阿南工業高等専門学校（国）	44

香川県

香川大学（国）	45
香川県立保健医療大学（公）	46
高松大学・高松短期大学（私）	47
香川短期大学（私）	48
せとうち観光専門職短期大学（私）	49
香川高等専門学校（国）	50

愛媛県

愛媛大学（国）	51
愛媛県立医療技術大学（公）	52
聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部（私）	53
松山大学・松山短期大学（私）	55
松山東雲女子大学・松山東雲短期大学（私）	57
岡山理科大学獣医学部（私）	58
人間環境大学松山看護学部及び総合心理学部（私）	59
今治明德短期大学（私）	60
新居浜工業高等専門学校（国）	61
弓削商船高等専門学校（国）	62

高知県

高知大学（国）	63
高知県立大学（公）	64
高知工科大学（公）	65
高知学園大学・高知学園短期大学（私）	66
高知リハビリテーション専門職大学（私）	67
高知健康科学大学（私）	68
高知工業高等専門学校（国）	69

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 徳島大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

令和6年度は、「シラバス作成ガイドライン」の改訂、TA、RAの研修を全学的に実施するための準備を行い、指導補助者研修の位置づけや制度設計につなげる下地を整えた。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

<FD>大学組織全体、学部等の教育プログラム、教員個人の能力開発の3つのレベルにおけるFDを実施している。特に、オンラインツールを活用してSPOD加盟校に配信している「授業について考えるランチセミナー」は、今年度から香川大学も共同で実施することとなり、高知大学との3大学共同でFDプログラムの開発・運営を行っている。また、今年度で20回を迎える「大学教育カンファレンス in 徳島」は、昨年度に続いてハイブリッド型で実施した。



大学教育カンファレンス in 徳島の様子

<SD>今年度新たな取組として、仕事の効率化・時間の管理について学ぶため、「じっくり学ぶタイムマネジメント講座」をオンデマンドで配信した。また、SPOD講師派遣プログラムとして「組織の力を引き出す観察力養成講座」を実施した。その他、職員のスキルアップや業務処理の効率化に資するため、英会話研修、パソコン講習会等を例年開催している。

【成果及び波及効果】

<FD>高知大学と香川大学との3大学共催で実施した「授業について考えるランチセミナー」では、新たに加わった香川大学の参加者が大幅に増加し、SPOD加盟校からも毎回60～70名が参加した。また、セミナーの開発者が増えたことで幅広いテーマで実施できるようになった一方で、セミナー運営に関する各大学の負担は比較的低コストに抑えられていることから、松下佳代（2023）が、「FDの難しさと面白さ」（『大阪公立大学大学教育』，1,19-38.）でアフターコロナのFDとして提唱する、事例から相互に学び、コストを小さくしたFDであることがわかる。

「大学教育カンファレンス in 徳島」は、ハイブリッド型で実施したことで、対面会場への参加者数は110名であり、全体としては全国各地からの161名の参加があった。また、SPOD加盟校からの研究発表が増えるとともに、ワークショップは過去最多の5件の発表が学内外からあり、参加者のニーズに合わせたアクセスしやすいカンファレンスであったことがわかる。

<SD>「じっくり学ぶタイムマネジメント講座」はオンデマンドで実施し、多くの職員が視聴していることが確認できた。本研修で、改めてタイムマネジメントを学ぶことにより、自分自身の仕事への向き合い方を見直す良い機会となった。本研修の実施により、オンデマンドによる研修のニーズが潜在的にあったことがわかった。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

<FD>博士後期課程の大学院生を対象としたプレFDは2名の参加があったのみである。来年度は、指導補助者研修も全学FD推進プログラムに取り込み、プレFDと同じ枠組みの中で実施する予定である。また他の組織が実施しているプログラムとも連携して、本学のプレFDを計画していく必要がある。

<SD>職員が参加しやすい研修方法について、検討する必要がある。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 鳴門教育大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

(FD) 令和5年度から全学導入した学生自らが学びを省察・探究する「セルフデザイン型学修」を加速させるため、令和6年度は学びを記録・蓄積する「e-ポートフォリオシステム」全学実践、教員養成学修可視化アプリ「セルデザ」リリース、学びを統合する体験活動「鳴教大生セルデザクエスト」導入等、教育改革を推進している。

(SD) 本学の人事方針に基づき効果的・効率的な事務組織運営を目指し、SD研修を計画して実施した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

(FD) 学部・大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会による全学的なFD推進事業「セルフデザイン型学修の全学実践に向けてーセルフデザイン型学修を中核とするカリキュラムとその運用ー」

(令和6年12月4日)を開催した。



(SD) 大学教職員として高等教育政策の動向や事例を理解し、教職協働を実質化することを目指し、SPOD内講師派遣プログラム「これからの教職協働」を対面にて事務職員ならびに大学教員も参加し、実施した。また、合理的配慮に関する教職員研修会を「学生目線から合理的配慮を考える」をテーマに対面にて実施した。

【成果及び波及効果】

(FD) 上記FD推進事業において、学長及びセルフデザイン型学修支援センター所長等からの話題提供・共同討議等を行うことで、第4期の教育改革に対する学内教員の共通理解が促進された。また、本学ウェブページ (<https://www.naruto-u.ac.jp/information/08/011005.html>) において毎年度のFD推進事業の成果に関する情報公表を行っている。

(SD) SPOD内講師派遣プログラム「これからの教職協働」においてさまざまなワークを行い、大学教員と事務職員の意見交換が交わされ、お互いの立場、主張を知り、本学の課題や強みが明らかになったことで、教職協働のより一層の推進が期待される。

また、合理的配慮について研修を実施したことで、学生の個性に応じた配慮について検討し知見を得ることができた。今後の学生支援に効果があると期待される。

なお、年度内に本学ウェブページにて令和6年度に実施した研修をとりまとめて公表予定である。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

(FD) FD(委員会)が学内各機関と有機的に連動して教育戦略や内部質保証を一層推進できるよう、令和7年度からFD体制の再構築を予定している。

(SD) 予算減少等厳しい環境により、職員1人あたりの業務量が増加する中、職員各自の業務遂行力及び大学職員の資質向上が求められる。継続的に各職員の能力向上に努め、事務組織力を効率よく高めていきたい。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 四国大学・四国大学短期大学部

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

大学経営をめぐる課題が高度化、複雑化する中で、教職員の職能開発と研修制度はますます重要性を増している。そのため本学では、教職員の自己啓発のために、また高度な専門知識・技術を習得するために、集合研修に加えてe-ラーニングシステムを活用したオンライン研修を実施するなど、多様な研修機会の提供を行っている。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

【FD/SD 共通】

- ・SPOD 講師派遣事業「現代学生の理解と関わり方」
- ・FD/SD 合同研修会 ※新任研修を兼ねる
「プレイフルラーニング～学びの知覚変動をおこそう～」

【FD の取り組み】

- ・各学部・学科専攻ごとに FD 活動を実施
- ・前期・後期学生による授業改善アンケート
- ・授業公開

【SD の取り組み】

- ・新規採用者職員研修
- ・職階別大学職員育成研修（若手・中堅・管理職）
- ・部門別大学職員育成研修
(職階別大学職員育成研修、部門別大学職員育成研修はe-ラーニングにて実施)



【成果及び波及効果】

対面で開催する研修会ではグループワークをととして活発な討議が行われるほか、学部・学科を問わず教職員の交流の場ともなっている。また、教員が他学部・他学科の授業を参観することで、自身の授業に取り入れたい内容など、授業運営の見通しにつながっている。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

教職員ともに、業務が年々多忙化しており、研修会の日程調整が課題となっているため、研修プログラムや開催方法、開催時期などを検討する。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

【FD】 本学の教育活動の質の向上に向け、授業アンケート・学修状況アンケート（在学生対象）・大学生生活満足度アンケート（卒業生対象）のアンケート集計結果や全学FD研修会・研究授業などを通して授業改善に取り組んだ。

【SD】 SD活動推進に関する基本方針・実施計画を踏まえ、高等教育機関としての教育機能の質的向上を支援するため、計画的に教職員の能力開発等の研修を実施した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

【FD/SD 共通】

- ・ 新任・昇任教員対象の研修会（4月）

【FD の取り組み】

- ・ 全学FD研修会（9月）

「新しい学修指導要領から考える主体的・対話的で深い学びの実現」を Google クラウドで個別研修（約 60 分）

【SD の取り組み】

- ・ 防火・防災研修会、ハラスメント研修会（8月）
- ・ SPOD内講師派遣プログラム（9月）
- ・ 全学防災訓練、人権講演会（11月）
- ・ 全学ハラスメント防止研修会（2月）



SPOD 内講師派遣プログラム



防火・防災研修会

【成果及び波及効果】

【FD】 全学授業アンケートの学生の回答率は60%を超え、定着してきた。さらに、教員コメントをフィードバックすることにより、学生の授業への取り組み意識や教員の授業改善への意識も高まってきている。また、FD研究部会の取組成果は活動報告として本学のHPで公開している。

【SD】 大学における教育・研究活動の質的向上を図るためには、教職員に必要な知識・技能習得のための研修機会を設けることが重要であることから、SPODの機能別研修会に職員を積極的に派遣しており、その中で、問題意識を持ち主体的に業務に取り組む者も出ている。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

【FD】 研修会や研究授業への参加について、次年度も研修会の参加率を向上するための方策を考えていきたい。また、授業改善への研修意識も高まってきており、視聴形式で参加できる効率的で有意義な研修を考えていきたい。

【SD】 今後とも将来的な展望を踏まえ、計画的な人材育成に取り組む必要がある。そのために、個別の研修プログラムを充実させるとともに、研修方法や開催時期などを検討し全学で研修を行う体制を一層充実させていく。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 徳島工業短期大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

これまで取り組んできた FD／SD 活動に加えて、サイボウズ活用による教職員間のコミュニケーションの円滑化に向けての取り組みなど ICT や、AI の教育及び事務に関する活用など、学長主導での教育改善、事務改善に取り組んでいる。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

FD

1. 9月6日に「学生からの授業評価アンケート」(3年間分)について、比較分析のグラフなどを資料とし授業改善の成果と課題について報告があった。
2. 公開授業(9月17日～30日)と授業評価研修会(11月1日)を実施した。
公開授業は、各教員が空き時間を利用して関心ある分野の授業を見学し、授業アンケートを提出する。また6月15日保護者会総会時には公開授業を実施した。
授業評価研修会は、前年度と今年の結果を比較して改善が進んでいる項目、課題などをグラフで提示し、その内容について協議した。

FD／SD

1. SPOD 講師派遣事業 「学生の自立を促す学生支援の 実践とコツ」9月20日
四国大学との共同 FD&SD 研修として、学生の自主的活動を活発化するために教員、職員はどのようなスタンスで対応すればよいかを研修した。講師は香川大学 大学教育基盤センター 准教授 蝶 慎一氏
2. SPOD フォーラム参加(8月28日～30日、開催地：香川大学)
3. 「生成 AI 講座」1月7日～
生成 AI による業務改善、効率化、高度化を目指す取り組みとしてすべての教職員向けに、生成 AI 講座を開講。1月の職員会議に於ける導入教育に続き、以後サイボウズ掲示板に於いて課題を発展的に提供して実施した。
4. 「留学生指導の充実化に向けた取り組み」11月15日から1月29日
①留学生指導の充実化に向けた問題抽出アンケート(11/15)、②教育・生活指導・事務の3部門における打ち合わせ指示(12/5)、③打ち合わせ結果の共有(1/29)、④四国大学との意見交換会に於ける意見交換(1/30)
5. 「やさしい日本語講座」の実施2月7日
留学生指導の充実化の一環として、外国人が理解できる日本語を学ぶワークショップとして、やさしい日本語を学ぶ講座を実施した。講師は四国大学 山崎寛子講師。

SD

1. 「サイボウズを用いた教職員間の連携について」5月31日
従来の対面や電話では直接応答が可能であるが、相手の時間が奪われるなどのロスも生まれる。ネットを利用した業務連携では、自身のペースで依頼し、受けても都合に合わせた対応ができる。サ

イボウズメッセージでは、1つのスレッドで提案から討議などを会話形式で実現できる特性を生かして、コミュニケーションを図れることを学んだ。

2. 「事務職員アンケート」2月

全学生対象に、事務局からの情報提供について、時間割ディスプレイなどの設備や事務職員の対応、事務室から得たい情報の内容など、様々な角度からアンケートを行っている。

【成果及び波及効果】

FD

- 1.各授業担当者による授業改善が進んでいることが明示され、本学全体の成果として共有できた。グラフ化により経年比較が容易になり、授業改善の状況が視覚的によくわかった。
- 2.保護者による授業参加アンケートは、子どもがまじめに授業を受けているとの意見が多かった。

FD／SD

- 1.生成AIの活用では情報の効果的な獲得、活用について知見を広げ共有することができ、学生指導、事務改善に新たなツールを得ることができた、SPODフォーラムの参加 SPOD 講師の派遣事業留学生対応についての研修では、教職員それぞれあるいは本学全体として抱える課題について、解決の糸口となる素養を得ることができた。留学生に関する研修では、茹でガエルの状態のところ新たな視点を得ることができた。

SD

- 1.サイボウズの活用することにより、情報共有の定型化、業務の簡略化が以前よりスムーズに進み、教職員間のコミュニケーションの改善が図れた。
- 2.アンケートにより、事務職員の負担軽減、学生への対応改善について貴重な示唆や気づきが生まれ、事務職員間の意識の共有が図れた。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

FD

- さらに研修成果が上がるよう、時間割の工夫等により授業見学の参加教員数を増やし、より多くの保護者から感想、意見を聴取することが課題である。

FD／SD

- AIの活用が進む中、倫理観を含めた教職員個々の活用スキルをより高めるため、AI研修を継続的に取り入れることが課題である。

SD

- サイボウズの活用については、教職員の運用能力にまだばらつきがあるため継続的に研修を行うことが課題である。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 阿南工業高等専門学校

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

高専機構本部や外部機関が主催する各種研修会等およびSPOD講師派遣プログラムを活用したFD／SD活動を行っている。また、オンライン受講できる環境・体制を整え、教職員それぞれに適した個別FD／SD活動も推進している。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

【FD／SD 共通】4月に新任教職員研修を行った。9月にSPOD講師派遣プログラムを活用して、教職員研修会（テーマ：組織の円滑な運営のためのストレスマネジメント、講師：香川大学 野口里美氏）を開催した。その他、オンデマンド教育システムによる英会話研修及びAI・データサイエンス研修を引き続き実施している。

【FD】11月に教員向けのTOEIC受験説明会を実施した。授業改善の取り組みとして教員相互の授業参観や、シラバス到達目標達成度アンケート、学修（学習）達成アンケート等を実施している。

【SD】高専機構本部、人事院、SPOD、外部機関が主催する各種研修等、キャリアに応じた研修に職員が参加している。

【成果及び波及効果】

新任教職員研修では本校の教職員として必要な基本的知識を養うことができた。教職員研修会ではSP（Sub Personality）トランプを用いたグループワークを実施し、自身や他者の性格特徴・ストレス耐性を知る手法を学んだ。シラバス到達目標達成度アンケートでは各科目における学生自身の理解度やシラバスに沿った授業が行われているかを、学修（学習）達成アンケートでは教員の熱意や学生の取組む意欲、予習・復習状況等を調査し、授業改善につなげている。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

教職員の研修のために全体のスケジュール調整が厳しい状況であるため、高専機構本部や外部機関が主催する各種研修・オンライン研修等の活用が中心となる。キャリアに応じた教職員の資質・意識向上のためにも本校内部でのテーマ別や役職別等の研修体系を検討していきたい。



SPOD 講師派遣を活用した研修会



教員向けの TOEIC 受験説明会

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 香川大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

令和6年度は、第4期中期目標・中期計画の3年目にあたり、全学共通教育における新カリキュラムをさらに具体的に運用し、継続的な改善を図るための取組を進めた。特に、TF（ティーチング・フェロー）制度の周知と推進をはじめ、本学で推進するDRI教育や「数理・データサイエンス・AIプログラム」に係る事業をめぐる各種の取組を積極的に展開した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

FD関係では、SPODフォーラム2024の主催校として開催に向けた企画や準備等を綿密に進めた。あいにく中止後も、オンラインを通じた基調講演（上野千鶴子東京大学名誉教授）動画の限定公開の取組をSPOD事務局と連携しながら実施した。SPOD開放の一部研修では、香川県立保健医療大学から複数の教員が参加され、FDを通じて本学の新任教員と一緒に教授能力を向上できる機会としても意義ある取組を行った。また、博士後期課程の大学院生を対象とした「TF講習会」を開催し、模擬授業を通じた大学院生の教育力の向上に資する研修の機会を提供し、2名に修了証を授与した。

SD関係では、評価者（管理職）研修、フォローアップ研修等の階層別研修や、語学研修、事務職員大学院研修等、職員自身の知識習得や課題解決能力向上を支援する研修を実施した。事務職員大学院研修においては、令和6年度から博士後期課程への職員派遣制度を新設し、本学創発科学研究科博士前期課程2名、博士後期課程1名、科目等履修生3名の職員を派遣した。



【成果及び波及効果】

FD関係では、充実した大学教育を提供するため、TF制度の周知と推進を強化するため全学でのFDに係る研修会でも具体的な取組やTF講習会の紹介を行った。SPODフォーラム2024が中止となり、新任教員が参加可能なFDの研修自体が少なくなったが、令和6年度から本学も共催として加わった「授業について考えるランチセミナー」では、本学の障害学生支援と授業づくりの観点から学内関連センターの協力の下、オンラインでの研修を提供でき、SPOD加盟校の教職員から肯定的な反響を頂いた。



SD関係では、本学創発科学研究科へ職員を派遣することで、教職協働を実践しながら、指導的役割を果たすことのできる人材の育成に繋がることが期待される。また、海外学術交流協定校へ職員を派遣することで、事務スキルと語学力を持ち合わせた人材の育成に繋がることが期待される。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

FD関係では、対面での研修に加え、オンラインで受講可能なFDに係る研修の更なる充実について検討を進め、新任教員研修の具体的な内容を含めて具体的なコンテンツの開発を模索したい。

SD関係では、人事育成上の必要性やニーズに応じた体系的な研修体制を構築し、職員に提供する。また研修参加率向上のため、研修参加を促すアプローチを行うとともに、研修を受講しやすい環境の整備を目指したい。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：香川県立保健医療大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

令和6年度のFD/SD活動として、前年度からの継続課題である大学教育の授業評価の効果的な運用があり、今年度は教務学務システムを活用しての実施が開始されシステム実施による課題検討を行った。また、前年度からの引継ぎ事項であるハラスメント研修の実施及び教員及びスタッフの学生支援への対応力を向上するための研修等を検討している。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

令和6年度は、教務学務システムを活用しての授業評価を実施した。現在の方法の効果及び課題について検討を進めている。

また、FD/SD研修会として、SPODの講師派遣プログラムを活用して、愛媛大学 上月翔太氏による「大学教員の倫理—学生との関係を省察する」と題して集合研修を実施した。

更に、前年度からの引継ぎ事項であるハラスメント研修について、オンライン研修を活用し、全学教員及び職員の受講を行った。

今年度は合わせて、学内教職員研修プログラムとして、「これからの大学での授業を考える ～ICTを利用した授業～」と題して研修会を実施し、授業評価についてグループワークを開催する予定である。



【成果及び波及効果】

授業評価の教務学務システムを活用して実施した結果、学生及び教職員の業務量の軽減は図れたが紙媒体よりも回収率が低い状況となった。この状況を受けて、委員会及び全学的に検討を進めるために学内教職員研修プログラムでの検討を実施する予定である。

ハラスメント研修について、学内の他委員会との共催実施により、全教員及び職員の受講が実施できた。全学的に研修を受講しハラスメント知識を深めることができたと考える。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

令和7年度は、今年度の課題である授業評価の在り方について、教務学務システム活用しながら継続的に検討していく必要がある。また、大学院教育も見据えた教育力向上のための支援システムや内容を検討していく。

令和6年度 F D／S D活動の取組報告

学校名： 高松大学・高松短期大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

【F D】

「全教員を対象とした研修」、「特にテーマに関係する教員を対象とした研修（参加希望の教職員を含む）」、「教員個々の研修」からなる事業計画を立て実施している。

【S D】

「全教職員を対象にした研修」、「特にテーマに関係する教職員を対象とした研修（参加希望の教職員を含む）」、「キャリア段階別研修」、「職務別能力開発研修」、「自己啓発研修」からなる事業計画を立て、実施している。

【F D／S Dの取組事例ハイライト】

【F D】

S P O D内講師派遣プログラムから、「成績不振・不登校学生対応事例による学生支援体制の構築」をテーマに、全教員を対象にオンラインで実施した。欠席者は、後日、録画を視聴し、視聴後にアンケートを提出した。

【S D】

S P O D内講師派遣プログラムから、「現代学生の理解と関わり方」をテーマに、全教職員を対象に対面で実施した。欠席者は、後日、録画を視聴し、視聴後にアンケートを提出した。

【成果及び波及効果】

【F D・S D共通】

対面が基本ではあるが、オンラインや欠席者に対しては動画視聴といった方法で研修を実施したため、講師や受講者の希望に応じた実施方法が選択できるようになった。

【F D／S Dに関わる次年度の課題】

【F D】

S P O Dその他の研修会への積極的な参加を促し、教員個々の能力向上に努めるとともに、令和7年度以降のF D活動について、「F D活動推進委員会」で検討していく。

【S D】

S P O Dその他の研修会への積極的な参加を促し、教職員のS D活動への理解を深めるとともに、令和7年度以降のS D活動について、「S D活動推進委員会」で検討していく。

令和6年度FD／SD活動の取組報告書

学校名： 香川短期大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

大学運営、教育運営の課題が山積する中、教職員に求められるスキルも高度化されている。本学は、今までに①アセスメント・ポリシーの実質的運用の推進、②授業改善、③カリキュラム改革、④IRの課題理解と実質運用、⑤ティーチング・ポートフォリオ作成、⑥コンプライアンス等の意識改革、⑦学生の大学づくり参画等に取り組んでいるが、今年度より新たに「生成AIの活用」、「教職協働」、「短期大学の方向転換」を加えて目標を達成するための研修を着実に実施している。

【FD・SDの取組事例ハイライト】

令和6年度の学内FD・SD研修は右下の表のとおりであり、参加率の平均は概ね83%程度となっている。

昨年度まで別々に実施していたFDとSDの研修を教職協働の観点から全て「FD・SD研修」として位置付けた。また、関心度の高い生成AIの現状や今後の短期大学の進むべき方向性等の研修も新たに加えた。

【成果及び波及効果】

「生成AI」については最新の情報を知ることができ、今後の本学の教育、事務運営にどのように活用していくのかを学ぶことができた。また「教職協働」の研修においては、教員と事務職員が縦割りではなく相互に連携協力して大学運営に取り組むことの重要性を学内で共有できた。

今後さらに学生を含めての「教・職・学」協働への考え方が大学の発展に繋がることも学べた。学修成果の評価・改善については、その手法や内容に関して充実が図られている。

また、意識の低下が視える危機管理については、宇多津町と連携しての新たな研修を行うことにした。FD・SD活動の意識向上と個々が意識して目標達成に取り組んだり、改善する姿が見られた。

【FD・SDに関わる次年度の課題】

今年度の研修内容を踏まえて、さらに充実を図ることは当然であるが、学生の学習意欲や能動的に就職活動に取り組む意識を引き出す具体的な方法についての研修が継続課題である。一方、教職協働、働き方改革を含め、誰もが活躍できる職場を目指すための意識改革も課題である。

また、次年度は「少子化時代をキラリと光る教育力で乗り越える私立大学等戦略的経営改革支援」に採択されたことから教育研究、大学運営・経営に関して方向転換を図ることも課題である。次年度に向けては教職員の意識改革が大きく図れるように取り組む考えである。



令和6年度 香川短期大学FD・SD研修		
研修名	開催時期	目的・内容
FD・SD	7月2日	「生成AIの現状と課題」 香川大学教育基盤センター特命講師 藤澤修平先生
FD・SD	9月10日	「これからの教職協働」 SPOD講師:清水栄子 先生(愛媛大学)
FD・SD	2月4日	「短期大学の諸相から見える未来の短期大学」 本学学長 加野芳正 先生・香川大学教育基盤センター准教授 西本佳代 先生
FD・SD	2月28日	研究倫理についての研修 本学 中俣保志先生
FD・SD	3月 日	各学科・専攻課程にてアセスメント・ポリシーに基づいた学修成果の評価・改善案等の報告。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： せとうち観光専門職短期大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

本学では、教育研究開発会議が中心となってシラバスの検討、授業や演習、臨地実務実習等の改善指導、授業評価の実施と取りまとめ等を行うことで、教育内容や方法の改善、教員の資質向上を図っている。令和6年度は開学から3年が経過し、3年制短大の第2期を迎えた。これまでの3年間の教育課題を踏まえ、専門職大学にふさわしい教育改革を目指し、学長を中心とした教育研究開発会議にて鋭意、検討している。「観光を教材として学ぶ」ことを通し、「人生を自力で切り拓く能力を鍛える」「考える」を学ぶ教育をベースに人間力（思考力・実践力・協働力）を身に付ける」「土台教育・職業教育で学んだ知識やスキルなどを臨地実務実習で活用し、人間力を磨く」という3つのコンセプト・ミッションを次々年度以降に実装するべく、システムの構築を構想している。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

○FD / SD 活動：SPOD 内講師派遣プログラムを活用

令和6年6月26日 教職員のための「アンガーマネジメントの基礎」
人間環境大学 吉田 一恵先生 （受講人数 教職員 16名）

○FD / SD 活動：ハラスメント防止研修

令和6年11月22日

人間環境大学 吉田 一恵先生 （受講人数 教職員 13名）

○FD 活動：授業評価アンケートの実施、学内研究会を活用した教員相互の研究・実践報告、オープンキャンパス等の模擬授業等を活用した教員相互での授業改善



【成果及び波及効果】

○SPOD 内講師派遣プログラム「教職員のためのアンガーマネジメントの基礎」ではグループワークを通して自分の怒りの正体を知り、コントロールの方法を学んだ。怒りの感情と上手に付き合い、セルフマネジメントにより学生、教職員間のコミュニケーションが円滑に進むようになった。

○ハラスメント防止研修では大学の教職員に必要な危機管理能力を学び、様々な事例について、グループワークを通し意見交換をすることで、よりハラスメントに対する関心やリスクマネジメントの必要性を共有できた。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

○講師派遣プログラムは、全ての教職員に対して積極的な参加を促す。

○ランチセミナーなど、オンラインで参加できるものを積極的に周知・案内する。

○きわめて小規模な大学という特徴を生かし、教員間での教育研究面での交流を盛んにする。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 香川高等専門学校

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

FD・SD研修：毎年度実施しているが、本年度はより実務に必要な内容をテーマとして実施した。

FD研修：新たに、本校教員が講師となり毎月教員会議終了後にFD研修を実施し、教育・運営にかかわること全般について発表した。

SD研修：高専機構や人事院主催の研修を活用するとともに、SPOD内講師派遣プログラムを活用した研修を実施した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

○FD・SD研修：全教職員を対象に「人に伝わるコミュニケーション」、「KIS評価による点検と改善」のテーマで実施した。

○FD研修：本校校長が、各キャンパスで「FD講演」を実施した。また、今年度から本校教職員が講師となり、毎月教員会議終了後にFD研修を実施し、教育・運営にかかわること全般について発表を行い、意見交換や質疑応答が活発に行われ、大変有意義であった。

○教育実践事例報告会：各種取り組み及び特色ある教育に関する実践について報告された。昨年度から集合形式での開催となり、報告事例に対して活発な質問が出るなど有意義な報告会となった。

○SPOD内研修：本校が開催校となり加盟校へ開放し、SPOD内講師派遣プログラムの講師を招いて、「チームビルディング」を実施した。参加者からは、言葉を説明するだけでなく、実際にグループワークで実践していくことで効果が体感でき、より理解が深まって良かったと感想が寄せられ、大変好評であった。



(SPOD内講師派遣プログラム研修会)

【成果及び波及効果】

○FD・SD研修：具体例を示した研修を行うことにより、必要な知識の習得や資質の向上など図るとともに、その重要性等を改めて認識させるなどの意識改革にも繋がっている。

○SPOD内研修：チームで連携して取り組むことの大切さ、そしてどのように連携していくかについて学ぶことができ、実践へのヒントを得て、業務にも活かされている。加盟校への開放により他機関からも参加があり、情報交換ができた。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

○今後も組織の円滑な運営に繋がる効果的な研修を企画し、教職員の資質向上、知識の習得、意識改革を図る。

○人材育成に繋がる研修等への積極的な参加を計画的に推進する。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：愛媛大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

大学院生が学部の授業において、担当教員の指導計画に基づき授業の一部を分担することができる「グラデュエート・スチューデント・インストラクター（Graduate Student Instructor：略称GSI）」制度を新設した（令和7年度から実施）。また、GSIの資格要件となる「教授法入門－専門分野の学識を教授するために」の授業を9月に開催し、本学の大学院生7人と研究員1人が受講した。これらの取組を通じて、大学教育の充実、大学院生のキャリア形成に繋がることが期待される。



教授法入門 授業の様子

【FD／SDの取組事例ハイライト】

【FD／SD共通】本学教育・学生支援機構教育企画室は、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名称：教職員能力開発拠点）に認定されている。今年度は「SDコーディネーター養成講座」「カリキュラム・コーディネーター養成講座」「教職事務担当者講習会（初級編）」「教務事務担当者講習会（初級編）」「大学教育国際化基礎知識&マネジメントセミナー」の5講座を開催し、全国の高等教育機関から計189名の参加があった。また、YouTubeチャンネルにFD／SD、に関する動画を新たに58本掲載するとともに、教育企画室が運営するぼっちゃんメーリングリストの配信も開始した。

【FD】今年度は「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」を9月に開催し、学内及びSPOD加盟校から計20名が参加した。また、「共通教育改革－大学院共通科目の開講に向けて－」をテーマとして、教育コーディネーター研修会を年3回実施した。12月の研修では、オンデマンド授業における著作物の取り扱いについて、外部講師を招き講演を行った。

【SD】若手職員がこれまでの業務を振り返り、成長を確認し、新たな目標を設定する機会として、11月にフォローアップ研修を実施した。また、12月には個々の自己啓発計画の立案と学習意欲の向上を目的として、「大学職員のための自己啓発入門」を開催した。

【成果及び波及効果】

FD／SDそれぞれのニーズに合った研修を実施することができ、全国から多くの教職員の参加があった。また、令和7年3月14日時点のYouTubeチャンネルの登録者数は345名、ぼっちゃんメーリングリストの登録者数は616名となり、広報力の強化に繋げることもできた。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

研修受講者が所属組織で研修の成果を十分に発揮するためには、継続的なフォローアップが重要となってくる。そのため、動画や書籍などで自己啓発のための教材を充実させるとともに、フォローアップ研修の企画・実施など、学習をさらに深めることを支援する取組を行っていく。

令和6年度 F D／S D活動の取組報告

学校名： 愛媛県立医療技術大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

令和6年度は、第3期中期計画の3年目であり、目標達成に向けてのF D／S D活動は確実に進捗している。

例年どおり、研修会の企画運営に加えて、学期ごとの授業評価アンケートや年度ごとのD P評価アンケートの実施、結果の分析等を実施した。

【F D／S Dの取組事例ハイライト】

1. 新任教員を対象に、新任教員研修を実施した。(5月)
2. S P O D内講師派遣プログラム事業として、愛媛大学 村田 晋也先生による「チームビルディング」研修を、全教職員を対象に実施した。参加できない教職員を対象に、後日動画配信をした。(7月)
3. 「科研費獲得のための研修会」を、全教員を対象に実施した。(7月)
4. 本学独自で、愛媛大学 仲道 雅輝先生による「学生の学びを促すシラバスの書き方」研修を、全教員を対象に実施した。参加できない教員を対象に、後日動画配信をした。(8月)
5. 本学独自で、本学学生相談カウンセラーによるハラスメント防止研修「メンタルケア再考～学生も教職員も心地よく過ごすために～」を、全教職員を対象に実施した。参加できない教職員を対象に、後日動画配信をした。(1月)
6. 学期ごとに、科目別授業評価アンケートを実施し、結果の分析等を行った。(前期・後期)
7. D P評価アンケートを実施し、結果の分析等を行った。(令和5年度末・令和6年度初め)



【成果及び波及効果】

今年度の取組のうち研修関連では、テーマが偏ることなく、多様な研修内容（人材育成、業務改善、授業改善・教授法、危機管理等）を提供することができ、教職員にとって必要な知識の習得やスキル向上の良い機会となった。

科目別授業評価アンケートやD P評価アンケートについては、結果を確認し分析することで、授業改善の手助けとなった。

また、これらの活動状況について、F D委員会が中心となり、F D活動報告書を作成した。

【F D／S Dに関わる次年度の課題】

W e bを利用した授業評価アンケートについて、回答率が低いため、向上させることが課題である。

また、S D活動についても積極的に学外への研修会への参加を促す予定である。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 聖カタリナ大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

＜FD＞教育の質保証を維持・向上するため、大学主体の自己点検・評価を定期的実施している。また、外部評価（第三者評価委員会）も受け、幅広い人材による学外の意見を活用している。くわえて、FD委員会において、年度初めに昨年度の活動を振り返り、今年度の実施計画を立案している。具体的には、FD研修会の開催やSPDO研修への参加、年2回の公開授業ならびに学生が自らの学修成果を可視化できるように「学修ポートフォリオ」の充実等を通じて、継続的にFD活動に取り組んでいる。これらの実施により、教職員はFD活動の重要性を理解し、FDに関する情報を共有して組織として教育活動改善に努めている。

＜SD＞SD委員会が中心となり、大学教職員として自ら考え主体的に行動するための意識づくりに取り組んだ。さらに、学外SPOD研修にも積極的な参加を呼びかけ、若手から中堅職員を中心にスキルアップと人材育成に力を入れて取り組んだ。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

＜FD＞新入職教員に対する研修や全授業の学内外への公開、学生による授業改善アンケート、学外SPOD研修への参加、学内FD研修会の開催、教員研究計画の作成・提出を実施した。学内FD研修会「その言葉・対応は、危険です！」（阿南工業高等専門学校 安田武司准教授）には全教員（大学55名）が参加し、学生・保護者対応に関する基礎的な知識ならびに、教職員が留意すべき対応のあり方及び学内の連携の在り方について学びを深めた。

＜SD＞本学が抱える課題改善に向けてSD研修会を2回実施した。「マーケット変化から見る今後の大学業界について」（（株）リクルート 平野寛俊氏）では、各種データや他大学の事例をもとに大学業界の現状を理解し、今後の大学全体での具体的な取り組みに活かせる有意義な学びを得た。「EMIRの視点から、何のために何を可視化し、どのように分析すべきかを実践的に考える」（大正大学 福島真司先生）では、仮想のデータを活用したグループワークを通して、休退学に関するエンロールメントマネジメントについて学びを深めた。

【成果及び波及効果】

＜FD＞学外SPOD研修への参加および学外講師によるFD研修会開催により、個々の教員によるFD活動への継続した取り組みを定着させるとともに、その活用による各教員の教育力の向上・授業改善活動の積み重ねが進められていることが成果としてあげられる。

＜SD＞SD委員会での取り組みを学内ネットワークによる情報発信や、年度末に作成する活動報告書等で学内全体に周知している。本学が抱える課題改善につながる学内研修会の実施や、SPOD研修会への参加によって教職員の自己研鑽への意識が高まり、教育活動の改善・向上に繋がったと考えている。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

＜FD＞取組事例に記載したものについて継続実施を進めると共に、それらの振り返り及び改善点の検討を進め、各取り組みを更に充実させる予定である。

＜SD＞今年度と同様に、SD委員会が中心となり、教職員の能力向上や組織の円滑な運営につながるような研修を継続して行い、魅力ある大学づくりに努めたい。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 聖カタリナ大学短期大学部

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

<FD>教育研究活動について、学生が自らの学修成果を可視化できるように「学修ポートフォリオ」を重視し、学期ごとの目標を定めるように指導している。学生への修学指導の規程を運用することにも努めており、例えば、ゆるやかな学習進度を示す学生に対して保護者面談含む履修指導を丁寧に実施している。また、昨年度より新たな教育課程を導入し、保育現場のニーズに対応した教育活動に努めている。ICTの活用に関しても各授業形態に応じた取り組みを実施している。教員の研究活動については、研究費の傾斜配分を実施し、研究活動を支援している。

<SD>SD委員会が中心となり、大学教職員として自ら考え主体的に行動するための意識づくりに取り組んだ。さらに、学外SPOD研修にも積極的な参加を呼びかけ、若手から中堅職員を中心にスキルアップと人材育成に力を入れて取り組んだ。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

<FD>今年度は、「その言葉・対応は危険です」について研修会を実施し、短期大学部の教員は全員参加した。教員は、授業内や日常的な学生指導、さらに保護者面談の際には注意深く対応している。これまでの実践について振り返り、今後の保護者対応に活用したい。

<SD>本学が抱える課題改善に向けてSD研修会を2回実施した。8月21日の「マーケット変化から見る今後の大学業界について」((株)リクルート 平野寛俊氏)では、各種データや他大学の事例をもとに大学業界の現状を理解し、今後の大学全体での具体的な取り組みに活かせる有意義な学びを得た。12月26日の「EMIRの視点から、何のために何を可視化し、どのように分析すべきかを実践的に考える」(大正大学 福島真司先生)では、仮想のデータを活用したグループワークを通して、休退学に関するエンrollmentマネジメントについて学びを深めた。

【成果及び波及効果】

<FD>本学は併設する4年制大学と合同のFD活動を実施している。学外SPOD研修への積極的な参加・発表や学外講師によるFD研修会の全員参加が定着している。また、年間2回の授業公開、授業改善アンケートの実施、研究活動報告書の提出など、大学全体のFD活動によって個々の教員の教育力が向上している。

<SD>SD委員会での取り組みを学内ネットワークによる情報発信や、年度末に作成する活動報告書等で学内全体に周知している。本学が抱える課題改善につながる学内研修会の実施や、SPOD研修会への参加によって教職員の自己研鑽への意識が高まり、教育活動の改善・向上に繋がったと考えている。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

<FD>次年度は、本年度以上に組織的な活動を継続していく。以前より課題となっていた教員の教育研究活動の向上のために、教員評価の検証を実施することが課題である。

<SD>今年度と同様に、SD委員会が中心となり、教職員の能力向上や組織の円滑な運営につながるような研修を継続して行い、魅力ある大学づくりに努めたい。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 松山大学・松山短期大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

松山大学長期ビジョン（2024-2033）に基づき策定した第1期中期計画（2024-2028）に盛り込んだ取り組みを各部門で推進し、学修意欲を刺激する仕組みづくりや主体的な学修を促し学生が自身の成長を実感できる教育の推進を目指した。

SD活動については、事務職員が積極的に教育改革等へ参画できるよう、大学等の運営に必要な知識及び技能全般を身に付けるため、学校法人松山大学スタッフ・ディベロップメント委員会が立案した研修計画に基づき、職員全体の能力及び資質の向上を目指す研修を実施した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

〈FD〉

全学的な研修会として、2024年10月31日に先進の研究活動支援例に関する講演会を実施したほか、各学部・研究科において「授業評価アンケート結果に伴う授業やカリキュラムの改善」「キャリア教育・就活支援、初年次教育、選択必修科目履修サポート」「各種セキュリティ対策」「高校生アンケート」等の研修会延べ5件を実施した。

〈SD〉

全教職員対象の研修については「災害に対する覚悟と準備～大規模災害に備える～」 「大学教育における倫理」「暮らす、学ぶ、働く合理的配慮の視点」をテーマとした研修を計3回実施した。また、マネジメント研修については「組織の中での信頼関係づくりについて」を、階層別研修（係長・課員対象）については「若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座（SPOD内講師派遣プログラム）」をテーマとした研修を各1回実施した。

【成果及び波及効果】

〈FD〉

全学的な研修により学部・研究科の垣根を超えて情報の共有を実現することができ、各学部・研究科の研修ではそれぞれが選定した独自の課題について検討が行われた。

全学的な研修については、講師の了解を得て学内限定で動画配信を行い欠席者や再視聴希望者にも対応したほか、ウェブフォームで意見や感想を集め、講師へのフィードバックや質疑応答の共有を行い、全体の参加率向上も見られた。

各学部・研究科の研修については、個別に報告書の提出を受け、取り組みの経過を記録していくとともに、全学的にFDを推進していくための方針決定に活用する。

〈SD〉

SDにおいては、ハラスメント防止、災害における危機管理、障がい者に対する配慮や対応など

大学職員として必要な知識を習得し、資質の向上に繋がった。また、マネジメント研修では、研修後に一定期間の事後課題を与え、研修で得た知識を実際の業務で実践する機会を提供することで、成果の定着化を図った。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

授業評価アンケートや学生調査の分析結果がより教育改善に活用され易い仕組みを構築し、FDが活発に行われるように後押しする。また、教学マネジメントと内部質保証の実質化に向けた取り組みをさらに進める。

SD研修への教育職員の参加率を上げるために、今後も、研修の実施方法や内容、参加を促すアプローチなど、様々な面で工夫を凝らしながら企画していく。

以上

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の令和6年度における主なFD/SD活動は、講師派遣プログラムを利用した研修会、学外講師による学園創立記念教職員研修会、学内外講師によるFD/SD研修会の実施、及び「学生による授業改善のためのアンケート」をはじめとしたFD関連アンケートの実施であった。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

○新任教職員オリエンテーション 4月1日（月）13：00～14：00／9月24日（火）13：30～14：00

○「学生の学修時間・学修行動調査アンケート」、「学生による授業改善のためのアンケート」実施

【SD研修会】

○「基礎から学ぶ学習評価法」（SPOD内講師派遣プログラム）（対面形式）

6月20日（木）15：30～17：30

講師：中井 俊樹 氏（愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 教授）

○「合理的配慮について」（対面形式）

9月10日（火）10：30～12：00

講師：野本 ひさ 氏（愛媛大学 教育・学生支援機構 教授）

○「情報セキュリティについて」（対面形式）

9月13日（金）14：30～16：10 主催：SD委員会・情報メディアセンター

○「学修者主体の学びの実現に向けての研修会①ー教学マネジメントの基礎ー」（対面形式）

11月11日（月）14：00～16：00

講師：中井 俊樹 氏（愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 教授）

○「シラバス作成方法について」（オンデマンド形式）

12月14日（木）16：00～16：30 主催：教務部

○「学生の主体性を育む教育」（対面形式）

2025年1月30日（木）15：00～17：00

講師：光成 研一郎 氏（神戸常盤大学 教育学部こども教育学科 教授）

<SD>

○事務職員研修会

・前学期 [8月9日（金）]：グループワークの実施

・後学期 [12月26日（木）]：グループワークの実施

【成果及び波及効果】

講師派遣プログラムでは中井 俊樹氏による「基礎から学ぶ学習評価法」を開催。基本的な理解とする貴重な機会となった。また、9月には学園創立記念教職員研修会として野本 ひさ氏による「合理的配慮について」を開催。合理的配慮の考え方や本質的なことを改めて再確認する機会となった。11月には中井 俊樹氏による「学修者主体の学びの実現に向けての研修会①ー教学マネジメントの基礎ー」を実施。教学マネジメントの基礎を理解する機会となった。「学修者主体の学びの実現に向けての研修会」の第2弾として、2025年1月に光成 研一郎氏による「神戸常盤大学 初年次教育科目 「まなぶる➤ときわびと」～学生と教員がともに主体的になる授業～」を開催し、神戸常盤大学の取り組みについて勉強する機会となった。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

昨年度から WEB 回答となった「学生による授業改善のためのアンケート」については、継続して回答率の向上に向けた取り組みが必要であり、学生への告知方法や設問項目の見直し、実施方法の改善などに努めたい。次年度においては、本学の状況に適する研修会の実施を検討していきたい。

以上

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：岡山理科大学獣医学部

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

令和4年度より岡山理科大学全体の達成目標の1つとしてDXの推進が掲げられた。このため今年度も継続してDXの推進のための取組みを行った。また今年度獣医学部が完成年次を迎えたことにより教員の大幅な入れ替わりが生じたため、これに対応するための取組みも行った。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

① 獣医学部・獣医学研究科情報セキュリティ研修会

DX推進の一環として情報セキュリティに関する研修会を本学部ICTネットワーク委員会と共催した。本学では学部等の組織ごとに情報セキュリティ対策マニュアルが作成されている。その周知状況の把握及び周知の推進のため、本学部教員に対して情報セキュリティ対策マニュアルについてのアンケート調査を実施することにより本マニュアルの理解度について確認するとともに、本マニュアルの重要点についての講義を実施することにより、本マニュアルの周知の推進を図った。

② 獣医学部定例FD・SD研修会

今年度本学部には多くの新任教員が赴任した。そこで新任教員が過去、現在、及び将来の研究及び教育活動等について発表を行い、これに対して教員間において質疑応答を行うことにより、新任教員と既存教員との相互理解を深める研修会を実施した。

③ SPOD内講師派遣事業「試験問題・レポート課題の作り方」

本学部では評価のあり方や試験問題の作成方法に関する議論がなされており、その一環として「試験問題・レポート課題の作り方」というテーマによるFD研修会をSPOD内講師派遣事業として実施していただいた。

【成果及び波及効果】

獣医学部・獣医学研究科情報セキュリティ研修会の実施により、教員の獣医学部・獣医学研究科情報セキュリティ対策マニュアルに対する理解と関心を高めることができた。獣医学部定例FD・SD研修会により新任教員と既存教員との相互理解を深めることができた。SPOD内講師派遣事業「試験問題・レポート課題の作り方」によりレポートの課題作成の改善や他の教員との教育課題の共有など授業の改善に活かされている。しかし研修の内容が本学部教員のニーズに合っていない等の問題点も明らかとなった。なお各研修会の内容はすべて収録し、その動画を教育能力開発センターの学内専用ウェブサイトにおいて公開しており、教員がいつでも視聴できるようにしている。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

獣医学部のような医療系学部には国家試験対策等の特有の教育課題が存在するが、その解決につながるようなFD／SDプログラムはあまり開発されていない。今後は医療系学部特有の教育課題の解決につながるようなFD／SDプログラムの開発に取り組む必要がある。

令和6年度 FD／SD 活動の取組報告

学校名： 人間環境大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

愛媛地区2キャンパス（松山・松山道後キャンパス）合同のFD・SD活動に加え、今年度は愛知地区（岡崎・大府キャンパス）もあわせた4キャンパス合同研修会を実施した。職階別研修、専門分野研修などSPOD研修を最大限活用するとともに、本学独自の研修を3回実施した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

- (1) **講師派遣プログラム**：2キャンパス合同研修会として、9月5日にFD・SD研修会「これからの教職協働」（愛媛大学清水栄子准教授）を実施した。
- (2) **事務職員合同SD活動**：2キャンパスの職員がSPODプログラム：大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（新任職員4名、レベルI2名）、教務事務担当者講習会（初級編2名）、Sを受講した。また、4キャンパスで「職員寺子屋塾」を実施した。
- (3) **愛媛地区5学科教員・広報合同研修会**：2キャンパスの教職員が集まり、5学科の代表教員が各学科の特徴をプレゼンし、今後の広報活動等に関する研修を実施した。



【成果及び波及効果】

(1) では大学を取り巻く環境の変化、学生の多様化、様々な教育改革の推進について学び、本学で目指すべき「教職協働」のあり方について講義・グループワークを通して理解を深めた。(2) では令和7年度に新学部が設置されることに伴い、新規職員が増加し、職員のさらなるスキル向上が求められることから、積極的にSPODプログラムを活用した。また、愛媛・愛知4キャンパス合同研修という職員主導の研修を初めて実施した。経験豊富な本学の職員（吉田副学長及び霧崎学生支援課部長）が講師役となり、大学全体の事務スキル向上を図った。(3) では代表教員による各学科の特徴の報告があった。その中でも弊学の強み及び他大学との違いに関して強調しており、新規入職教職員の本学への理解を深めるとともに、今後は教職員ひとり一人が広報隊員としての役割を担うよう意識改革を行なった。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

令和7年度、松山道後キャンパスに新学部の開学に伴い、学生及び教職員が増加し、より一層教職員間の連携が必要となることから、教職員各々が本学独自の「教職協働」の実践を目指す。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 今治明德短期大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

本学のFD／SD活動は、年度始めの新任教職員研修、ピアレビュー、学生授業評価アンケート、SPODフォーラム等の研修への参加、SPOD内講師派遣プログラム、卒業時アンケート等を定例的に実施している。令和6年度のFD／SD活動の目標として①学生を中心としたFD／SD活動の実施、②PDCAサイクルを回すFD／SDの取り組みの2つを掲げた。これらの目標達成に向けた令和6年度の新しい取組としては、学生の意見聴取の実施である。学生祭で卒業生や在校生に本学のよい所をメッセージボードに書いてもらう方法で行った。3年目の実施となる本学独自のSD研修では、本学の現状を踏まえ、「選ばれ、生き残れる大学とは」をテーマとした。

昨年度からの改善点としては、ピアレビュー活動で事後アンケートをもとに期間を延長するとともに本学の現状を鑑みてこれまでの方法を変更した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

・新任教職員研修会 令和6年4月2日実施 参加者2名。

・SPOD内講師派遣プログラム(写真は研修の様子)

令和6年7月25日「学生の自立を促す学生支援の実践とコツ」 香川大学 大学教育基盤センター 准教授 西本 佳代 先生(参加者数:教員 14名 職員 8名 計 22名)。

・ピアレビュー 令和6年10月7日～令和7年1月24日 専任教員だけではなく、職員、非常勤講師の参観も可能とし、職員については、本学の教学内容を知る機会としている。今年度はこれまでの事後アンケート結果を受け、期間の延長を行い、本学の現状を鑑み、無理のない範囲で実施する方法とした。

・本学独自のSD研修の実施 令和7年2月13日 株式会社リクルート地域活性営業部中国四国グループ・グループマネージャーによる「選ばれ、生き残れる大学とは」のテーマで実施する。

・学生から意見(生の声)を聞く会 令和6年10月26日 学生祭に合わせて本学卒業生、在校生から本学のよいところをメッセージボードに書いてもらう方法で実施した。



【成果及び波及効果】

これまで小規模校としての特色を生かし、教員も職員も共に研修する形で活動を実施している。SPOD内派遣講師プログラム、令和4年度から実施している本学独自のSD研修については受講率が高く、研修内容を学内で共有できている。また、FD／SD活動については、月に1回開催される職員連絡会において計画、研修案内、実施報告を行い、教職員全員で共有している。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

学生のための教育や学生支援に向けて、学生の意見や声が反映できるFD・SD活動を全学で推進していく。また、令和6年度の自己点検評価をもとに次年度以降の活動につなげていく。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名：新居浜工業高等専門学校

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

本校主催の研修のほかに、高専機構や人事院主催の研修、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）のFD/SD研修に教職員が参加した。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

○令和6年11月、SPOD内講師派遣プログラムにより香川大学・大学教育基盤センターの小坂 有資 先生を招聘し、「現代学生の理解と関わり方」と題し研修会を開催した。今回は、ハラスメント研修、学生相談室研修も兼ねて開催し、キャンパスハラスメントの事例、学生との面談の際に心がけるポイントなどについて講演いただいた。



(SPOD内講師派遣プログラム研修会)

○令和7年1月、本校の男女共同参画推進室が文部科学省から提供のあったオンライン動画教材を使用し、研修を実施した。研修題目「学校における男女共同参画の推進～無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に気づき、変革につなげるために～」

○各主事による新任教員基礎研修を実施した。基本的な業務内容、業務の考え方、諸規則、指導、運営方法を新任教員に講義した。

○中堅職員6名を対象として、業務の効率化、課題解決能力の向上、ロジカルシンキングなどのeラーニング動画による研修を実施した。

【成果及び波及効果】

SPOD内講師派遣プログラムは、受講者の満足度が高く、業務への取組が改善できると期待している。今年度は小坂有資先生による「現代学生の理解と関わり方」を実施し、教職員が今後学生と関わる際の注意点やコツについて講演いただき、現代学生に対する理解を深めることができた。

また、研修の開催及び参加により、参加した教職員のその研修内に直接関係した能力の向上が図れている。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

多くの研修で対面での開催になっており、ほぼコロナ禍以前に戻った。一方、オンライン・オンデマンド形式での実施によって、より多くの教職員が参加しやすくなるため、対面・遠隔それぞれの利点を生かした研修を行っていききたい。

本校開催の研修においては、研修による効果を検証し、より効果的な研修を実施できるよう努めていきたい。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 弓削商船高等専門学校

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

校内では例年に引き続きFD/SD研修が実施された。また、高専機構本部による研修への参加に加えて、MDASH(応用基礎レベル)の認証に向けた取り組みが学校全体で行われており、それに伴う研修や高専間の公開授業への参加があった。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

〈FD／SD〉

○SPOD内講師派遣プログラムとして、令和6年9月17日に「教学IR入門」として、愛媛大学の真鍋亮氏による研修会を実施し、教員18名、職員14名が参加した。

○高専機構主催の新任教員研修（令和6年5月27日、28日、教員1名）及び中堅教員研修（令和6年10月30日、31日、教員1名）に参加した。

○高専間の連携研修として、MCCPlus拠点校（AI・数理データサイエンス分野）授業見学会（令和7年1月20日、教員1名）、MCC Plus COMPASS 5.0 IoT分野授業見学会（令和7年1月23日、教員1名）、COMPASS 5.0 IoT分野ブロック別模擬授業体験（令和7年2月22日、教員2名予定）や「デジタルものづくり教育の強化」（令和7年2月4日、5日、教員1名予定）への参加及び、業界団体との協力による「バッテリー教育プログラム」（令和6年11月11日、12月4日、教員1名）などに参加した。

○この他、高専機構、人事院、中四国国立大学法人等主催の研修に計25名（重複有り）を派遣することで、教職員の能力向上を図った。

〈FD〉

○学生による授業評価アンケート

○授業資料/答案用紙の電子ファイル化

○CBTの実施 ○卒業生アンケートの実施

○教員相互による授業参観の実施



SPOD研修の様子

【成果及び波及効果】

研修に参加した教職員の事後アンケートの結果などから、参加した教職員の意識の向上やスキルの向上の機会となっており、研修の効果が得られていることが確認できた。また、模擬授業体験や教育強化など具体的な教育方法に関する研修などへの参加が多く見られており、教職員のスキルの向上に向けた取り組みがあった。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

コロナ禍以降、多彩な開催手法が採用されることで参加する教職員の都合が合わせやすくなった。一方で、集合形式の研修では個別の問い合わせがし易いため、今年度に引き続き次年度も集合形式研修を取り入れることで各種研修を有意義なものにしたい。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 高知大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

全学的に DP、CP、AP の見直しを実施した。その中で、DP は高知大学の育てる「10+1 の能力」との対応がより明確な表現に改めるとともに、全学必修の高知大学リテラシーレベル数理・データサイエンス教育プログラムへの対応が図られた。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

[FD] 9月に開催された「学生の主体的な学びを促す授業準備ワークショップ」は、これまでに受講生から寄せられた研修の負担に対する意見を参考に、これまでオンデマンドコンテンツによる事前学習としていた講義内容を研修本体に組み込むとともに、グループ単位で実施する模擬授業の担当者を2日目に決定するよう、構成を修正して実施した。

[SD] 新任事務職員研修、「共通スキル等向上に向けた Off-JT（入門編）」、「管理職のための勤怠管理・人事評価研修」、「語学研修（英語（入門編））」、「語学研修（英語（中級））」を実施した。

そのほか、今年度新たに、SD 企画として、「よさこい祭り高知大学演舞場設置プロジェクト」を実施した。



(令和6年度 高知大学新任事務職員研修の様子)

【成果及び波及効果】

[FD] 「学生の主体的な学びを促す授業準備ワークショップ」には、19名が参加した。アンケートでは9割以上の回答者から、このFDの内容が教育実践に生かせる内容で、新たな人的つながりを得る機会となり、全体的に満足できるものであるとの回答を得た。このFDが、今後の授業改善につながる事が期待される。

[SD] 「共通スキル等向上に向けた Off-JT（入門編）」では、各課で共通して求められる庶務的スキルを学び再確認することで、日々の業務への理解を深めた。

「語学研修（英語（入門編））」、「語学研修（英語（中級））」では、TOEIC 対策による英語力向上のほか、ディスカッションやプレゼン発表を取り入れ、受講者の英語学習への意欲向上に繋がった。

「よさこい祭り高知大学演舞場設置プロジェクト」では、「業務遂行力」、「企画力」、「変化対応力」等の能力向上を目的として、演舞場の企画から運営までを担うプロジェクトチームを立ち上げ、OJT形式でのSDを実施した。プロジェクトを終え、参加者からは、普段の業務では経験できない部署を横断した調整・交流の機会を得ることができ、いい経験になった旨のコメントや、企画を実行に移すための方法及び多角的な検討について学ぶことができた旨のコメントがあり、狙いとしていた実践的な能力の向上に繋がった。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

[FD] 新任教員研修プログラムが必修化されて8年目となるため、プログラム構成の見直しを検討したい。併せて、一部のFDプログラムをオンデマンドコンテンツとして提供し、受講者の利便を向上させたい。

[SD] ワークを多用した研修における、対面とオンライン併用の実施について、効果的な実施方法の工夫や見直しを行う。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 高知県立大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

令和5年度からの10年間で高知県立大学が目指す姿として「UoK Vision 2033」を定め、大学運営・教育改革に取り組んでいます。2年目の令和6年度は、高知県立大学デジタル・トランスフォーメーションブランドデザインを策定しました。「教育」、「地域貢献・研究」、「業務」の3領域が繋がりをあうDX化を進めていきます。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

【FD】全学のFD研修会として、発達障害のある学生だけでなく、広く障害学生も含め、どのような支援を行えるかという観点から、「障害学生支援の観点から考える授業の工夫について」というテーマで外部講師を招いて研修を実施しました。

【SD】2回の研修会を開催した。第1回はSPOD内講師派遣プログラムを活用し、「大学教職員の倫理～学生との関係を省察する～」というテーマで外部講師を招いて研修を実施しました。第2回は「能登半島地震の災害支援の実態」というテーマで、実際に現地で災害支援を行った学内教員を講師に研修を実施しました。



※SD研修会の様子

【成果及び波及効果】

【FD】全学のFD研修では、学生が多様化するなかで、障害学生支援という観点に立つと留学生など多様な学生に支援方法を活用できること、ICTの技術進歩でできるようになった支援の実例などを学ぶことができました。研修会には、対面21名、オンライン23名、後日視聴18名、計62名が参加しました。研修会後のアンケートでは、修学支援に関する次の段階の研修を希望する声が複数あり、修学支援に対する意識の向上がみられました。

【SD】第1回は、大学教職員としての倫理観を振り返ることができました。ハラスメントへの対応策や他者理解に繋がり、学生への接し方等を考える機会となりました。第2回は、防災意識をより高めることができました。能登半島地震の災害支援を行った学内教員による講演を聞くことで、被災地の実情や災害への備えについての重要性がよく理解できました。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

FD/SDともに、大学のDX化や運営・教育の改善につながる研修を実施していきます。また、できる限り多くの教職員が参加できる日程や参加（視聴）方法で開催するよう努めていきます。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 高知工科大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

データサイエンスを含む最先端の ICT 技術を活用し、工学的視点と社会に対する俯瞰的な視野の両方を兼ね備えた文理統合型の教育・研究を展開し、これにより、デジタル社会において新たな価値を創造できる人材の育成を目指し、令和6年度より「データ&イノベーション学群」を開設した。

なお、同学群では、講義で得た知識を実社会と結びつけるため、課題解決型学習（PBL）やインターンシップなど、県内外の多様な業種をフィールドとした実践的な科目の充実にも取り組んでいる。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

○FD の取組

教員が果たすべき役割を明確にし、教育研究の持続的な発展を図るため、教育をはじめとする各種活動を数値化し、教員評価を実施している。評価結果は、教員の再任可否や年俸改定等に反映している。

○SD の取組

SPOD 内講師派遣事業として、若手・中堅職員を対象に、外部講師による「大学教職員として知っておきたい高等教育論入門」をテーマとした研修を実施した。

また、職員のキャリア形成支援の一環として、国際交流センターが実施する海外研修の引率者を公募し、職員1名を派遣した。台湾のトップ大学である国立清華大学及び国立陽明交通大学を訪問し、現地の学生や教員との交流を行った。



令和6年8月開催 SPOD 内講師派遣プログラム

【成果及び波及効果】

本学の教員評価システムでは、大学として重点的に取り組む事項を明確にし、求める教員像を具体的に示すことで、教員が自発的に教育・研究・地域貢献活動の向上に取り組む風土が築かれている。評価結果は教員にフィードバックされ、一部の評価項目については学内に公開している。

また、SPOD 内講師派遣事業では、参加者の多くが高等教育の現状を理解し、大学職員としての役割や課題を学ぶことで、大学教育の意義を再認識する契機となった。さらに、海外研修の引率業務を通じて、国際交流業務への理解を深めるとともに、国際的な視野を広げる貴重な経験を得た。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

FD については、引き続き授業評価及び教員評価システムを運用し、教員の能力開発を推進する。

SD については、研修参加が特定の職員に偏らないよう、幅広く職員に参加を促し、計画的に研修へ派遣する。また、管理職を含めた階層別研修の実施を検討するとともに、職員の自主的な能力開発活動を支援する。

令和6年度 F D／S D活動の取組報告

学校名： 高知学園大学・高知学園短期大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

高知学園大学と高知学園短期大学は、共同でF D／S D活動を行っている。

今年度は前期で効果的な授業参観の在り方を検討し、後期に実施するとともに、前年に授業参観を行った教員による「公開授業」も再開した。授業参観で寄せられた意見をいかに次年度の授業に反映させているかを検証し、教員の授業力向上に活かしている。また、令和7年度からのWi-Fi環境の整備に伴い、ICTを活用した授業改善が必要となることから、ICTを活用した先駆的な取り組みをしている教員の授業の授業参観も行い、参観者自身の授業改善にもつながる取り組みを行った。

本学では毎年、平素の活動状況を発表する機会として「高知学園大学・高知学園短期大学F D・S D活動研究発表会」を開催している。今年度は令和7年3月4日に開催した。今年度は個別の発表に加えて、教育方法の変換を全学的に図っていくことを目的に、情報企画委員会がICTを活用した授業方法についてのプログラムを実施した。

【F D／S Dの取組事例ハイライト】

令和7年2月18日に、同一学校法人内の高知リハビリテーション専門職大学と合同でS P O D内講師派遣プログラムを実施した。今年度は香川大学・小坂有資先生による「現代学生の理解と関わり方」と題した研修会を高知学園大学において対面により開催した。高知学園大学・高知学園短期大学からは教員40名、職員3名が参加し、研鑽に努めた。

学生による授業アンケートは、より効果的な授業改善につながるよう、内容の見直し、修正を行った。各教員はその結果に基づく自己分析をまとめ、授業改善に取り組む。また、アンケートの自由記載において特に対応が必要と思われる意見を学科別にまとめ、学科長に提示しF D活動につなげるよう促した。

今年度は、教員・職員に対し、大学執行部、あるいは法人本部により学生募集や財政分析についての現状報告が行われ、厳しい学生募集状況及び財政状況についての共通の認識を得る取り組みが行われた。

【成果及び波及効果】

F D／S Dについて一度後退した活動を再開し、軌道に乗せ始めているので、その成果は徐々に表れるものと期待している。

【F D／S Dに関わる次年度の課題】

地方の大学・短期大学として生き残るために教職員の能力開発や資質の向上につながるF D／S D活動の実行が今後の課題である。現在、来年度に向けて大学・短期大学に必要とされる事項についての計画を立てており、具体的には、ハラスメントに係る研修会、研究活動活性化のための研修会等を学内で実施する予定である。また、高等教育をめぐる情勢についての情報の取得及び研究と、それらの成果を教職員にフィードバックするような仕組みを検討していきたい。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 高知リハビリテーション専門職大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

本学では、毎年学内専任教員による研究授業を実施している。今年度は、前年度の学生による授業評価アンケート結果において、満足度の高い授業を研究授業対象科目に設定し、授業内容や指導方法の検討を行った。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

【FD／SD 共通】「発達障がいのある学生に配慮した授業づくり」のテーマにて、合理的配慮を有する学生への対応について、研修を実施した。基礎知識から具体的な事例、対応事例に基づくアドバイスを提示いただいた。例年開催している「ハラスメント防止」に関する研修を、全教職員対象と管理職対象と2回に分けて実施した。

【FD】授業評価アンケートにて学生からスライド内容に対する改善要望があったことから、学内研修会にて教材作成のワークショップとして「学生の学習意欲を上げるスライド作成」を実施し、授業改善に取り組んだ。

【SD】「大学における危機管理の基本」のテーマで、危機管理に関する基本的な事項について実施した。



令和6年8月 学生の学習意欲を上げるスライド作成
(会場：高知リハビリテーション専門職大学)

令和6年12月 全教職員対象ハラスメント防止研修
(会場：高知リハビリテーション専門職大学)

【成果及び波及効果】

授業評価アンケート結果の満足度の高い授業を研究授業に設定できたことにより、各教員の授業改善の参考として役立てることができた。参加教員による授業参観評価アンケート結果は、全教員で共有している。学生の学習意欲を上げるために、教員同士がディスカッションし、作業できたことは、教員個人の学びに繋がり、教材づくりを見直す動機づけとなった。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

FDについては、学修ポートフォリオの活用方法や、資料のデジタル化対応についての研修を予定している。授業改善の取り組みについては、引き続き学生による授業評価を踏まえ、学修者本位の教育を提供できる教育方法及び内容の開発・工夫を実践する。SDについては、職員の資質向上のため、キャリアに応じた計画的な研修機会を設けたい。また、引き続き SPOD 研修への積極的な参加を促していきたい。

令和6年度 F D／S D活動報告書

学校名： 高知健康科学大学

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

高知健康科学大学は2024年4月に開学し、初年度のF D／S D活動に取り組みました四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）への加盟により、研修の幅が広がり、学内全体の研修や各研修への参加促進が容易になりました。今後、大学の更なる発展のためにこれらの活動を積極的に活用していく方針です。

F D／S Dの取組事例ハイライト

カテゴリ	取組事例
SPOD 関連	・事例から考えるハラスメント（教職員全員） ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（新任職員2名） ・令和6年度「授業について考えるランチセミナー」
本校独自	・高校教員からの提言・ディスカッション（教職員全員）
科研費等外部資金勉強会	・研究倫理eラーニング（日本学術振興会）（教職員全員） ・第7回 JSPS 研究倫理セミナー ・科学研究費助成事業等説明会 全2回（教職員全員）
ココブラサロン	・第2回「学生数3万人超！大学のブランディング戦略とは？」 ・第6回「これからの時代を生きるためのワークライフバランス」
全国リハ学校協会	・インストラクショナル・デザインって何だ
数理・DS・AI 教育	・数理・DS・AI 教育におけるFD



写真は、2024年12月に竣工した新図書館（新図書館内にミーティングルームがあり、研修会で使用）

【成果及び波及効果】

開学初年度ながら、F D／S D活動を通じて以下の成果が得られました。

1. 教職員全員参加の研修会実施
2. 教職員の意識改革の促進
3. 研修機会提供の仕組み構築

今後は、より厳選された研修内容を提供し、全体の士気向上と個人のスキルアップを図ります。活動の成果は大学のホームページ（情報公開）に掲載予定です。

【F D／S Dに関わる次年度の課題】

1. F D／S D活動の定着
2. 新規教職員への対応
3. 大学発展への貢献

開学初年度のため、F D／S D活動はまだ不十分な状態です。次年度は新たな教職員も増える予定であることから、F D／S D活動をさらに充実させ、大学の発展に貢献できるよう努めます。

令和6年度 FD／SD活動の取組報告

学校名： 高知工業高等専門学校

【令和6年度の教育改革に関わる動向】

「教職員の資質向上」、「教育効果の点検」、「アントレプレナーシップ教育の推進」の3テーマを主な活動方針として取り組み、年度当初の目標を達成することができた。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

(1)学内新任教員 FD 研修

初任者3名の教員に本校のLMS（Google Classroom）の講習に加え、メンター教員を配置して、相互授業を実施した。2024年12月2日に実施した報告会では、メンター教員からの授業参観の感想やアドバイスを受けて、今後の参考にしたい点や要望に対する意見交換が行なわれた。

(2)SPOD 講師派遣プログラムによる学内 FD 研修会

6/3（月）に人間環境大学副学長 吉田一恵氏による「教職員のための「アンガーマネジメントの基礎」」のテーマで、自分の怒りの正体を知ったうえで、セルフマネジメントを行なう方法や、アンガーマネジメントの実践方法について研修を行なった。研修は本校の教員37名、職員15名の計52名が参加し、受講後アンケートには42名が今回の「研修内容に満足」、39名が「今後の業務への取組み方が改善されると思う」と回答した。



(3)教員による相互授業参観

学生にアンケート調査を行ない、評価の高かった教員2名の授業を動画撮影し、全教員を対象に9/12（木）～9/30（月）の期間で閲覧するよう周知を行なった。参観者数の合計は44名であった。

(4)SPOD 研修への参加

SPOD 関係研修には、職員2名が集合形式で参加した。

(5)学内 FD/SD 研修会

8/2（金）に「ハラスメント防止研修」を実施。公益財団法人高知県人権啓発センター 研修啓発課長 中田正康氏を講師としてお招きし、ハラスメント防止に関する啓発及び学校に関わるすべての方の事件が尊重される学校づくりについて研修を行ない、教職員合わせて約80名が参加した。

11/7（木）に「令和6年度高知高専いじめ対策委員会研修」を実施し、いじめの事案について全教職員が理解し、どのように対応を行なうべきか研修を行ない、教員16名、職員20名の計36名が参加した。

11/29（金）に、「令和7年度 Web シラバスの入力作業研修」を実施し、本校教員が講師となり研修を行ない、教員27名が参加した。

【成果及び波及効果】

SPOD 講師派遣プログラムについて、今年は録画できないとの事前連絡があり、当日参加のみとなったが、その旨を周知し当日参加を促したところ、昨年を上回る人数の教職員が参加し、受講者間の意見交換・情報共有も多く見られた。

FD/SD 研修について、教職員の認知度が広まり、学内での研修も活発に行なわれた。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

来年度も3つの方針に基づいて活動していく。課題としては、多忙な教職員に対して FD/SD 研修に受講できる体制づくりや環境整備が必要であり、オンラインや録画視聴による参加ができる体制の整備も引き続き希望する。

7. 令和5年度事業評価委員会 からの事業評価について

令和5年度SPOD事業評価委員会委員の評価への対応について

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(以下「SPOD」という。)では、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約第11条及び事業評価委員会要項に基づき、SPODの実施する事業に対して評価を行い、その改善に資することを目的として、事業評価委員会を設置している。

令和5年度は、「SPODフォーラム2023」の視察やSPOD活動報告書をもとに、委員3名から各々の立場で意見・評価をいただいた。SPODネットワークコア運営協議会では、事業評価委員会委員のご意見に基づきSPOD事業改善に向けて議論し、以下のとおり対応と今後の方向性の検討を行った。

1) 共通事項

指摘事項 【SPODフォーラムについて】

●プログラムによっては事前課題が設定されていますが、その課題が手元に届いてから課題提出までの期間が短く、十分準備ができないものもありました。この点は、配慮する余地があるのではないかと思います。

●以前に分類されていたFD・SD種別の明記がなく、講義・ワーク・シンポジウム・ポスターセッションの4分類とシラバス等での主たる対象者の指定がなされている。参加者が、自身の職務や関心に基づいて選択できる自由度と柔軟性が確保されているものの、並行セッションのために参加したいプログラムの時間帯が重複して選ぶことができないこともありうる。教室の収容人数、グループサイズ・数などの制約条件に基づいて、プログラム選択の幅が有効に機能したかどうかは、参加者アンケート等により検証してもよいかもしれない。

●対象者の選択を有効に機能させるためには講義・ワークの種別を問わず、プログラム紹介のショートビデオ(2～3分でよい)を用意したりする方策もありえる。

●ポスターセッション会場が、やや狭小なことで、懇親会の実施がなかったこともあって、対面実施のよさである交流が十分に促されかについては、一考の余地が残されていると思われる。対面開催とはいえ、対面とオンラインを組み合わせ、Social Networkのような参加者交流の時間や機会の創出の工夫ができるかもしれない。

●対面の参加体験の価値を最大化するためにも、インストラクショナル・デザインや研修設計の観点から、SPODフォーラムの各プログラムの設計そのものが、範を示せるものとなることが望ましい。事前課題等の提示の時期、内容、提出〆切、さらには事後のフィードバックのタイミングなど、学習者が見通しをもって受講できるように担当する講師へのインストラクションも工夫いただきたい。

●講義については、あえて対面で行うべき内容か、単なるリサーチの報告にとどまっていないか、プログラム編成とシラバスの作成の段階でも、検討しておいたほうがよい。

対 応

1点目のSPODフォーラムの事前課題については、今回の指摘やSPODフォーラム2023のアンケート要望を参考に、今年度は8月上旬に受講予定者に送付し、十分にに取り組む期間を設けることとした。

2点目のプログラム選択については、SPODフォーラム2025において、FD・SD・学習支援・

講義型プログラムを特定の教室に固めることで、受講者の関心や属性に合ったプログラム選択を行いやすくなるよう工夫する予定である。プログラムの配置については、今後の受講者アンケートなどを通じて引き続き改善を進めていく。

3点目の紹介ビデオについて、今年度は個々のプログラムの作成については実現できなかった。しかし、SPODフォーラム2023のダイジェスト動画をYouTubeチャンネルのトップに固定する、SNS上にリンクを積極的に掲載するなど動画を活用した周知に取り組んだ。

4点目の交流機会の創出については、新型コロナウイルスの流行に伴い中止していた情報交換会を今年度は実施する方向で準備を進めていた。SPODフォーラム2025においても情報交換会を開催する予定であり、受講者間のネットワーク構築が図られるような企画の実現に引き続き努めていく。

5点目、6点目の講師へのインストラクション、講義内容の調整については、これまで講師に任せている部分が多い状況であった。そのため、SPODフォーラム2025の講師依頼の際は、SPODコア校内で指摘事項を共有し、研修方法、事前課題などの研修設計について、各講師に工夫してもらうよう依頼を行った。また、SDについては、SPOD-SDCが講師のインストラクションに関与できるような仕組みをつくることも検討していく。

指摘事項 【海外事例の調査・比較について】

●コミュニティ・カレッジの共同FD・SD提供団体であるNational Institute for Staff and Organizational Development (NISOD)、ニューイングランド地区のNew England Faculty Development Consortium (NEFDC)など、機関誌の発行や年次カンファレンスの規模感など、いまのSPODフォーラムと趣旨や課題が共通しているものについては、改めて参考にしてもよいかもしれない。国内で比較できる規模の大学教職員の教育・学習コミュニティは少なく、今後の発展のために、ベンチマークをとっておくことが、長い目でみた運営の大局に有効と考える。

対応

ご提案のNISOD、NEFDCについてウェブサイトを通じて調査を行った。加盟校数の規模などはSPODより大きなものであるが、ミッションに共通性もみられ、いくらかの示唆を得ることができた。

たとえば、ウェブサイトや刊行物の充実による知見の共有や普及は、現状研修やフォーラム等のイベントに活動の中心がおかれがちであるSPODの今後の活動の展開に不可欠な視点である。また、NISODはさまざまな形でのスポンサーを募っているが、大学以外に支援を求める点はSPODの今後の持続可能性を高めるうえで、検討すべきこととなるだろう。

これらの両団体を含めた諸外国のFD・SD提供団体について引き続き調査を行うこととする。

指摘事項 【研修の実施内容について】

●対面研修の参加者が少ないものが多く見受けられる反面、オンライン型の研修への参加者が多いのが印象的であった。対面でしか実施でない形式、良さも十分あると思われるので、オンラインでの気軽な参加に人員を奪われないよう、さらに実施内容を工夫し、対面研修での参加者を増やす工夫を行って欲しい。

対応

SPODが提供するプログラムについては、多くが対面で実施する状況に戻ってきている。

FDについては、オンラインを活用したプログラムの開発、実施も並行して行っており、研修の目的や内容に応じて、方法を使い分けながら実施しているところである。また、新任教員研修では対象者が参加しやすくなるよう、事前にオンライン学習を取り入れており、対面時のワークショップの充実と日程の効率化を図る工夫を行っている。

SDについては、大学人・社会人としての基礎力養成プログラムにおいて、各大学の職員のつながりを構築することも研修全体の目標としていることから、対面で実施し、多くの参加者を集めている（会場や講師の都合上、これ以上の定員増は難しい）。現在、SD専門部会の検討ワーキンググループなどで、新たなプログラムの検討、既存のプログラムの見直しを行っており、今回ご指摘いただいた内容を踏まえて、内容的に対面が適しているもの、オンラインやオンデマンドが適しているものなどを精査し、実施内容や実施方法の工夫を進めていく。

指摘事項 【事業予算について】

●事業経費が総額 7,700,000 円と各大学の負担額 6,200,000 円となっており、その差額はどこから補っているのか、また、多くの事業を展開、プログラムを実施している割には、予算が少なく、運営が継続できる様、協賛金の獲得、負担金の増額を検討していくことが肝要ではないか。その上でも、他のコンソーシアムとの連携、協議も今後活発にしていくことも合わせて検討して欲しい。

対 応

事業経費の総額と加盟校の負担額との差額については、SPODフォーラム参加料を中心とした研修料収入により補っている状況である。また、SPOD将来構想における「持続可能なSPODの組織体制を構築する」を実現するためにも、ご指摘のように事業予算の運用を見直していく必要があると考えている。このことから、令和6年度SPOD総会では、予算の年度繰り越しについて審議し、柔軟な予算運用の実現を図ることとしている。さらに、SPODフォーラム2024で申請予定であったコンベンション協会補助金など外部資金の活用、他地域のコンソーシアムとの交流を通じた研修受講者の確保、企業等からの協賛金を得られる企画の検討なども進めていく。

2) FD

指摘事項 【FDのリソース活用について】

●FD担当者の数が多くないなかでは、コア校の負担が心配される。SPOD事業のなかで、コア校の教育開発専門職のリソース、FDリソースの共有化を継続することには、費用面やポストの確保も含めて、引き続き十分な理解を得ながら持続的な取り組みを行っていただきたい。

対 応

SPOD加盟校内で公開されているFDコンテンツ（動画、資料等）を効果的に加盟校教職員に届けることができるように、「SPODオンラインFDコンテンツプラットフォームサイト（β版）」を調査研究プロジェクトとして共同開発した。また、複数の大学の担当者が共同で実施するFDプログラム「授業について考えるランチセミナー」を開発することで、重複する部分を調整するとともに、各大学のFD担当者が持つそれぞれの専門性を活かしたコンテンツを共同利用することができた。

3) SD

指摘事項 【次世代リーダー養成ゼミナールのSD担当部署との連携について】

●リーダー養成は、機関を越境して行われる場合に、所属機関に持ち帰って定着を図ることに、しばしば文化的衝突などの困難を起こすこともある。各機関のSD部署との連携が期待される。

対 応

機関毎に、次世代リーダー養成ゼミナールの受講者へ期待することなどの差異があり、所属機関に持ち帰って定着を図ることが難しいことは承知しているところである。それを多少でも改善していくために、また、受講者のフォローアップ的な位置付けとして、本ゼミナールの講師及びSPOD事務局が次世代リーダー養成ゼミナール修了生のいる大学のSD担当部署や修了生と意見交換のできる場（オンラインを含む。）をつくることを検討する。

指摘事項 【次世代を切り拓く大学職員の育成に関する検討WGの成果報告について】

●「次世代を切り開く大学職員の育成に関する検討ワーキンググループ」等の成果報告がどのようになっているか詳しく報告いただきたい。

対 応

本ワーキンググループは、令和5年度から2年間の活動となっている。令和5年度については、中間報告書を作成したので追加で送付を行いたい。なお、令和6年度終了時点において、2年間を通じた報告書を作成する予定である。

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)
事業評価委員会要項

平成21年3月6日
ネットワークコア運営協議会決定

(設置)

第1条 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約第11条の規定に基づき、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(以下「SPOD」という)に事業評価委員会(以下「評価委員会」という)を置く。

(目的)

第2条 評価委員会は、SPOD実施事業に対して評価を行い、もってSPOD実施事業の改善に資することを目的とする。

(組織及び運営)

第3条 評価委員会は、大学等におけるFD/SD活動に造詣が深い者をもって組織する。ただし、委員はSPOD加盟校以外の機関に所属する者とする。

2 前項の委員は、ネットワークコア運営協議会(以下、「運営協議会」という。)の議を経て、会長が委嘱する。

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員会に議長を置き、委員の互選により選出する。議長に事故があるときは議長が予め指名する委員が、その職務を代行する。

5 委員会に関する事務は、代表校において処理する。

(評価方法)

第4条 評価委員会は、運営協議会が作成した実績報告書を基に、評価を行い、その結果を運営協議会に報告する。

(評価項目)

第5条 委員会は、次に掲げる事項について評価を行う。

(1) SPODの組織運営体制に係る事項

(2) SPODの行うFD事業に係る事項

(3) SPODの行うSD事業に係る事項

(評価の公表)

第6条 SPODは、評価結果をホームページ等を通じて公表する。

附 則

この要項は、平成21年3月6日から施行する。

附 則

この要項は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成25年4月1日から施行する。

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

事業評価委員会名簿

任期：令和5年4月1日 ～ 令和7年3月31日

※山田委員の任期は、令和6年4月1日～令和7年3月31日

すぎもり きみかず
杉森 公一 北陸大学 高等教育推進センター 教授

たかの おさむ
高野 修 広島経済大学 総務部長

やまだ まさかず
山田 正和 公益財団法人大学コンソーシアム京都 事務局長

(計3名 敬称略)

8. 令和7年度事業について

令和7年度SPOD事業計画

1. SPOD共通事業

- ・SPODフォーラム
令和7年8月27日（水）～8月29日（金） 開催場所：徳島大学
「全体テーマ：学生が安心して学びに向き合う大学の基盤づくり」
トップリーダーセミナーを併せて開催
- ・大学教育カンファレンス in 徳島
令和7年12月26日（金） 開催場所：徳島大学
- ・SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計27回） 開催場所：各加盟校
原則として、1法人あたり1回とする。
ただし、高等専門学校については、1校あたり1回とする。
- ・FD・SDに関する調査研究
- ・情報提供サービス
 - ①研修プログラムガイド2025の発行（年1回、ホームページ掲載）
 - ②令和7年度SPOD活動報告書の発行（年1回、ホームページ掲載）
 - ③SPODホームページの管理・更新
 - ④SPODメールマガジンの発行
- ・その他コア運営協議会で承認された事業、プログラム等

2. FD事業

- ・FD担当者研修（分野別・指導補助者養成） 開催場所：徳島大学
SPODフォーラム2025において開催
- ・新任教員研修の実施・公開 開催場所：各コア校
- ・ティーチングポートフォリオ作成ワークショップの公開・実施
開催場所：愛媛大学、徳島大学
- ・各種FDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校
研修プログラムガイド2025に掲載したプログラム

3. SD事業

- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（年5回）

開催場所：

新任職員	1回	対面	5月14日～16日	開催場所：愛媛県内
レベルⅠ	1回	対面	10月30日～31日	開催場所：愛媛大学
レベルⅡ	2回	対面	6月19日～20日	開催場所：香川大学
			11月20日～21日	開催場所：愛媛大学
レベルⅢ	1回	対面	10月2日～3日	開催場所：愛媛大学

主担当：SPOD事務局

- ・職務別能力開発研修、SD担当者研修 開催場所：徳島大学

SPODフォーラム2025において開催

- ・次世代リーダー養成ゼミナール（年5回）

※うち1回は「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅡ）」をもって充てる

開催場所：徳島県、高知県、愛媛県

主担当：SPOD事務局 協力校：各コア校

- ・各種SDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校

研修プログラムガイド2025に掲載したプログラム

4. SPOD運営

①総会（年1回）

②ネットワークコア運営協議会（年6回程度）

※うち1回は愛媛大学での対面開催を予定

③監査（年1回）

④その他

i) FD／SD分科会

・FD分科会（年1回）

・SD分科会（年1回）

ii) SPOD加盟校県内会議 四国各県において必要に応じて実施

参考資料

平成 20 年 10 月 18 日
制 定

(名称)

第1条 本会は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education。以下「SPOD」という。）と称する。

(目的)

第2条 SPODは、四国地区の大学（四国地区に一部の学部等を置く大学を含む。）及び高等専門学校（以下「大学等」という。）の連携・協働により、地区内のFD／SD事業の推進と大学等の教育力の向上を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 SPODは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) FD／SDプログラム等の調査研究及び開発
- (2) FD／SDプログラム等の共同実施及び共同利用
- (3) FDe r（ファカルティー・ディベロッパー）及びSDC（スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター）の養成
- (4) 参加大学等間における職員派遣等による交流
- (5) その他SPODの目的を達成するために必要な活動

(加盟校)

第4条 SPODは、別表第1に定める加盟校をもって構成する。

2 四国地区の大学等で、SPODの目的及び事業に賛同するものは、第9条に定める総会の承認を経て、新たにSPOD加盟校となることができる。ただし、四国地区に一部の学部等を置く大学については、当該学部等单位で加盟するものとする。

3 SPODを退会する場合には、総会の承認を得なければならない。ただし、原則として退会する3ヶ月前までに会長に申し出るものとする。

(コア校)

第5条 加盟校のうち、別表第2に定める大学をコア校とする。

2 コア校は、共同でネットワークコアを形成して、第3条各号の事業を企画立案、実施するほか、各県内の加盟校からの意見の集約及び調整等を行う。

(その他の加盟校)

第6条 加盟校のうち、前条のコア校以外の大学等は、ネットワークコアの依頼に応じて、第3条各号の事業に参加する。

(代表校)

第7条 コア校のうち、1校をSPODの代表校とする。

2 代表校は、コア校の互選により選出する。

3 代表校の任期は2年とし、再任を妨げない。

(会長、副会長、監事及び企画・実施統括者)

第8条 SPODに、会長（1名）、副会長（3名）、監事（2名）及び企画・実施統括者（1名）を置く。

2 会長及び企画・実施統括者は、代表校から選出する。

3 副会長は、代表校を除くコア校から選出する。

- 4 監事は、コア校を除く加盟校から選出する。
- 5 会長、副会長、監事及び企画・実施統括者の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 6 会長は、SPODを代表する。
- 7 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。
- 8 監事は、会計を監査する。
- 9 企画・実施統括者は、SPOD活動に係る企画及び実施を統括する。
- 10 補欠による会長、副会長、監事及び企画・実施統括者の任期は、前任者の残任期間とする。

(総会)

第9条 SPODに、総会を置く。

- 2 総会は、加盟校をもって構成し、代表校が招集する。
- 3 総会の議長は、会長が務める。
- 4 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。
- 5 加盟校は、当該加盟校を代表して総会に出席する者1名(以下「代表者」という。)を、事前に登録しなければならない。ただし、加盟校に所属する他の者が、事前に登録した者を代理し、又は総会に陪席することを妨げない。
- 6 総会は、次の事項を審議する。
 - (1) SPODの活動方針及び活動報告に関すること。
 - (2) SPODの規約に関すること。ただし、別表を除く。
 - (3) SPODの加盟及び退会に関すること。
 - (4) 会長、副会長、監事及び企画・実施統括者の選出に関すること。
 - (5) SPOD事業契約の役割分担に関すること。
 - (6) SPODの予算及び決算に関すること。
 - (7) その他全加盟校による審議が望ましい事項
- 7 総会は、加盟校の過半数が出席しなければ、開会することができない。ただし、加盟校は、審議事項があらかじめ決定している場合においては、事前の意見提出をもって出席に代えることができる。
- 8 総会の議事は、出席の加盟校の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(ネットワークコア運営協議会)

第10条 SPODに、ネットワークコア運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

- 2 協議会は、コア校をもって構成し、原則として月1回開催する。
- 3 協議会の議長は、企画・実施統括者が務める。
- 4 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。
- 5 協議会は、次の事項を協議する。
 - (1) SPODの活動に係る企画立案及び実施に関すること。
 - (2) SPODの行う研究開発、人材育成等に関すること。
 - (3) その他SPODに係る重要な事項
- 6 協議会における協議概要及び配付資料は、原則として加盟校に配付する。

(事業評価委員会)

第11条 SPODに、協議会が作成した実績報告書を基に事業評価を行う事業評価委員会(以下、「委員会」という。)を置く。

- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務局)

第12条 SPODの事務局は、代表校に置き、加盟校の協力を得て運営にあたる。

(会計)

第13条 SPODの事業経費は、加盟校からのネットワーク年会費及びその他収入をもって充てる。

2 監事は年1回の監査を行う。

(その他)

第14条 本規約に定めるもののほか、SPODの運営に関し必要な事項は、総会又は協議会が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成20年10月18日から施行する。

2 この規約の施行後、最初に任命される第7条第1項の代表校の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

3 別表は、新たな加盟校があった場合等に適宜改訂を行うものとする。

附 則

この規約は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規約は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規約は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規約は、平成30年3月29日から施行する。

別表第1 加盟校

徳島大学
鳴門教育大学
香川大学
愛媛大学
高知大学
香川県立保健医療大学
愛媛県立医療技術大学
高知県立大学
高知工科大学
四国大学
徳島文理大学
高松大学
聖カタリナ大学
松山大学
松山東雲女子大学
高知学園大学
高知リハビリテーション専門職大学
四国大学短期大学部
徳島工業短期大学
徳島文理大学短期大学部
香川短期大学
高松短期大学
今治明德短期大学
聖カタリナ大学短期大学部
松山東雲短期大学
松山短期大学
高知学園短期大学
せとうち観光専門職短期大学
岡山理科大学獣医学部
人間環境大学松山看護学部及び総合心理学部
高知健康科学大学
阿南工業高等専門学校
香川高等専門学校
新居浜工業高等専門学校
弓削商船高等専門学校
高知工業高等専門学校

別表第2 コア校

徳島大学
香川大学
愛媛大学
高知大学

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」役員名簿

任 期 : 令和 5 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 3 1 日

※副会長（香川大学長）任期：令和5年10月1日～令和7年3月31日

※副会長（高知大学長）任期：令和6年 4月1日～令和7年3月31日

（令和6年4月1日現在）

会 長 仁 科 弘 重 愛媛大学長

副 会 長 河 村 保 彦 徳島大学長

副 会 長 上 田 夏 生 香川大学長

副 会 長 受 田 浩 之 高知大学長

監 事 加 野 芳 正 香川短期大学長

監 事 鈴 木 康 司 新居浜工業高等専門学校長

企画・実施統括者 中 井 俊 樹 愛媛大学教育・学生支援機構 教授

令和 6 年度
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク
活動報告書

令和 7 年 3 月 発行

発行 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事務局
(愛媛大学教育学生支援部教育企画課)
〒790-8577 愛媛県松山市文京町 3 番
T E L 089-927-9154
E-mail spod@stu.ehime-u.ac.jp
ホームページ <https://www.spod.ehime-u.ac.jp/>



SPOD